

りつめい

題字・末川 博名 誉総長

Ritsumeikan University
Alumni Association
立命館大学校友会報

RITS
立命館大学

No. **217**
JULY 2004

Brilliance
輝くひと
50

帽子を”自分再発見”の種に
阪本智香さん 100経年 帽子作家

特集1

海外へはばたく
立命人たち

特集2

校友会
新執行部発足

特集3

APUは
新たな挑戦へ



特集1

海外へはばたく 立命人たち

佐藤 満さん/谷垣健太郎さん
八田真太さん/エンゴリーさん

特集2

校友会 新執行部発足

山中諄新会長インタビュー 他

輝くひと

阪本智香さん

RITSUMEI INTERVIEW

ライブハウス「拾得」オーナー

寺田国敏さん・文江さん夫妻

恩師の窓

濱崎正規 名誉教授（経済学部）

酒井達雄 理工学部教授

キーワードから見る現代

裁判員制度

指宿 信 大学院法務研究科教授

立命館あの頃

1985年～1990年頃 その1

自由席



特集3

APUは 新たな挑戦へ

モンテ カセム学長

校友会大会2004のご案内 21

校友会ネットワーク 22

こんな会あります 23

インドネシア校友会
静岡県校友会

BKC10周年を迎えて 26

Rits One 時の学生 27

小浮正典さん

キャンパストピックス 28

学生のスポーツ&イベント 30

INFORMATION 32



帽子を“自分再発見”の種に



表紙の人

帽子作家
阪本 智香さん
('00経営)

「帽子は、その日の気分や雰囲気をも変えてくれます。同じ帽子でも、かぶる角度やつばの上げ方を少し整えるだけで、いろいろな表情を作り出せますよ」。

阪本さんは帽子によって生きる道まで変えた。会社員時代、手芸の本を頼りに一つ作ってみたことで、帽子のもつ演出力と、手仕事から得られる充実感のとりこになったのがきっかけだった。独学で縫製法やデザイン、材料を研究するうちに、「私にも作って」と、周囲から声がかかりはじめた。「本当に満足できることに時間を使い、腕一本で自分を支えられるようになりたい」と、会社を辞め、全くのゼロから出発したのが2年前のことだ。現在では、“Semilla”（セミージャ・種を意味するスペイン語）のブランド名を冠したオリジナルラインナップと、それをベースとしたセミオーダー帽子の展開をしている。

顧客は神戸周辺の山の手地区に多い。シンプルで主張し過ぎない、小粋な帽子。「ラインのきれいさ、質の良さが引き立つように、引き算のデザインを心掛けています」。顧客と接するときには、かぶり方の提案などを足し算でじゅくりと。「お客様の先入観を解きほぐし、一味違うご自分を発見していただく過程が楽しみです」。一つひとつの帽子が、相手の笑顔を引き出す“種”になってほしいと願い、喜んでくれる人々を鏡にして、自分の存在を実感すると言う阪本さん。

苦しかった時期も、不安や迷いを振り切ってこの道に賭けた。努力の花の蕾がほころび、爽やかに香りはじめている。 <http://semilla.or.tv/>

(写真・小幡 豊 文・寺田直子)



海外へはばたく



立命人たち

活躍の場を海外に求める校友が増えている。
ある人は大志を抱き海を渡り、またある人は、
日常生活の一部として庭のように各国を歩く。
懂れて留学した日本で、そのまま働き続ける若者もいる。

世代によって、国境に対する意識や
海外経験の内容の違いこそあるものの、
異文化を尊ぶ真摯な心や、それを楽しむおおらかさ、
困難をものとしめないエネルギーは同じである。

APU校友を含めた四人の方に、
海外と触れ合う時の心構えや秘訣について、
各々の立場から語っていただいた。

**Rits Alumni playing
an active role overseas**





Mitsuru Sato

佐藤 満

さん (67歳)

■ 有限会社 佐藤満国際経営・農業研究所 代表取締役社長

一九四三年生まれ。六七年法學部卒業。小さな会社「社で勤務後、七三年本田技研工業株式会社入社。ホンダモーター・ド・ブラジルへの出向を経て、八五年ホンダ・タイランド社長。九一年本社輸入車部長。九四年フォルクスワーゲングループ・ジャパン社長。九八年日本セネラル・タズス社長。二〇〇二年退職とともに現社設立。
抜き出た手帳により、着任する先で「伝説」と言われる抜群の営業実績を上げる。「壁を破る指導法」(日経Bp社)「冒険心をもち」(ダイヤモンド社)など、著書多数。

三八カ国放浪旅行の効用

私の国際ビジネスマンとしての原点は、大学卒業直後に決行した世界三八カ国無銭旅行にあります。何としても世界を自分の目で見たいと、旧ソ連、ヨーロッパ、アフリカ北部、中東、アジア、一年半をかけて放浪しました。ヨーロッパでは、何とかアルバイトやヒッチハイクもできましたが、イスラム圏に入ると難しくなり、盗難にも遭ってとうとう物乞いをするに。恥の気持ちも消えてしまった頃、バグダッドで通りがかりの日本人商社マンが七〇ドルも恵

んでくれたのです。有難さと悔みさが入り混じる中で、「何のためにここまで来たのか。必ず世界を股にかけるビジネスマンになろう」と決心しました。
この旅でたくさんさんの親切な人に出逢い、世の中捨てたものではない、大半は善意で満ちていると感じました。そして、自己表現の力、無頼の精神と自信、したたかさなど、経験に裏付けられた実によくのものを得ました。一番肝に染み込んだのは、自分の考えと人の考えは違うということです。自らは是とし、他人はそれを理解せよというのは国際社会では全く通りません。

堂々と主張することと同じくらいに、相手を理解する努力、時には妥協もまた大切だと心底感じたものです。

真の国際人とは 日本が国際社会で輝くには

世界に通用する人の条件は、自分の国の歴史・文化・経済等々についてきちんと語れること。それから、どこの国の人に対しても分け隔てなく対応できることだと思っています。さらに言えば、地球上に存在する差違はいわゆる「差」ではなくて「違い」であるという認識も大切ですね。追いつけ、追い越せというのは「差」の発想で、もう古い。世界の多様性を受け止めて、「違い」に謙虚に対応できる人が真の国際人でしょう。グローバルスタンダードという言葉の落とし穴に陥らず、「Think globally, Act locally」でいきましょう。
日本人の多くが、未だに西洋がアジアより優れているという意識を払拭できずにいるのは残念です。近隣諸国の理解に努め、言語も積極的に学べば、相手からの信頼が増すのではないのでしょうか。同時に、日本のことをきちんと理解してくれる外国人を意識的に育てることも重要です。例えばやる気のある留学生には、アルバイトに追われなくても暮らせる程度の支援をする。その代わり日本語等の習得試験を課して、後に然るべき架け橋となってもらえるように。ア

ジア、そしてアラブやアフリカとも理解し合おうとする気持ちに行動も伴うように努めたいものです。

向かい風を追い風に

海外、特に厳しいビジネスの現場には苦勞がつきものです。けれど、強い向かい風も、自分が向きを変えさえすれば追い風になります。道を拓けるかどうかは、ある状況をどう考え、いかに利用するかにかかっています。最初の駐在先のブラジルで私は、ポルトガル語で新規開拓営業をしなければならませんでした。「こんなことでもなければポルトガル語を学び得なかった。チャンスだ」と思った時、目の前がぱっと明るくなったのです。その時、風のつかみ方を知り、世界各地で実践しながら今日に至っています。

皆さんも世界の多様性を楽しみ、あらゆる出来事をあなたの力に変えて下さい。

人類の素晴らしき 多様性を愛す



タイ マーケット金賞を受賞 (1989年)



海外へはばたく 立命人たち

地球人になりきって 心の自由を

in ASIA & OCEANIA



「VAIO」の魅力を
世界に伝える

「昨日ドバイから帰ってきたところで、明日から上海に行きます。パソコンVAIOの販売エリアのうち、日本を除くアジア、オセアニア各国と、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、それに南アフリカでの業務を担当しています。」

谷垣さんの仕事は、海外ソニー各社に対してVAIO販売促進の方策を伝達・指導することである。店の作り方、効果的かつ魅力的な商品説明の仕方、各種メディアの利用法などを、現地人の担当者に伝え、彼らの実績の評価もするリーダーだ。細やかで臨機応変なコミュニケーションが要求されるハードワークだが、「VAIOを好きになってもらい利益を上げるという共通目標があるので、国が違ってもどうってことはないですよ。」

「何でもあり」が一番楽だ

谷垣さんは「立命館大学・アメリカン大学共同学位プログラム」の一期生。海外に出ていく仕事をするという目標を早くから描いて、それを実現した。「僕は神輿もかつぐ日本男児なんですよ。でも、地球上には行けるところが他にいっぱいある。だから行こうと、シンブルにこう思っているだけです。」

海外ビジネスで困るのは時差のみ。文化・習慣の違いには腹をくく、あるいは割り切る、これでOKだそう。だ。「中華系の人たちとは、僕が迎え入れられる側、これは倒れるまで飲む。翌朝、掌に「水」と書いてあったんです。たぶん僕はもう飲めない店の厨房へ逃げて、しゃべれないから掌に書いたんでしよう。「水」をくれと（笑）。彼らにすれば、最高の歓迎です。一方西洋文化圏では、仕事はここまでという線引きが時間的にも内容でも非常にシビア。でも仕方がない。合わせるしかないです。」

経験を重ねるうちに、あらゆる事態を肯定的に受け入れられるようになり、日本の窮屈な考えに縛られるよりもずっと楽な心もちになれたということだ。

六〇億人を見渡して

超多忙な日常の実態はどうなのだろう。「仕事をやり出したらエンドレスになってしまうので、プ



ドバイにてアラブの現地担当者ら

ライブ・トの予定を先に入れます。夕方六時に約束を入れたなら、前日は遅くまで頑張ればいいだけ。職場から徒歩七分のところに住んで無駄な時間をなくし、週末にはサーフィンを楽しんでいます。キーワードは「集中と選択」、それから「面白く」です。国境をものともしない若きビジネスマンは合理的でどこも明るく大きい。

将来の夢も相当なものだろうと

■ソニー株式会社グローバルバイオダイレクト部

谷垣 健太郎 さん（98産社）

Kentaro Tanigaki



1974年生まれ。立命館・アメリカン両大学で学び98年卒業。同年ソニー（株）入社。「VAIO」の宣伝、販売促進関連業務に携わる。
<http://www.vaio-online.sony.com/>

尋ねてみた。「社内」三万人の中で夢を見ては、狭い。日本の一億三千万人の中で完結してしまうもの、つまらない（笑）。では、世界規模のビジネス起業を目指すのか？「いや、仕事で忙しくなったら終わりです。僕の二〇年後は、自分の時間を大切に、家族とも楽しめるようでありたい。海外、海外と肩肘張らずに、世界の六〇億人を無視しないというスタンスで。例えば、好きな盆栽はどうか。盆栽には海外での大きな可能性があります。いま外国の然るべき人たちが興味をもっているのに、英語で説明できる盆栽屋ならば引張り風でしょう（笑）。どこまでが本音なのか。地球人谷垣さんの精神は、どこまでも自由である。」

広州という街、そして自分の可能性に賭ける

昨年春、中国・広州に日本語学校を設立し、代表を務めている八田さん。中国語で「地道口語」、すなわち使える会話を育てることをポリシーに、既に一五〇〇人以上に日本語を教えてきた。「中国全土の日本語学習者で、私のことを知らない人がいなくなるくらいの実績をあげたいです」と堂々と語る。日本人などの外国人向けの中国語教育にも熱心で、独自に開発した中国語発音理論は好評だ。

高校を卒業する頃から、海外で自分を鍛えたいと考えるようになっていったという。初めての海外旅行先であった台湾で、少なからぬショックと感動を覚え、ますますその思いが強まった。経済学部に入学途中二年間台湾師範学校に留学。

中国で有数の日本語教育者を 目指して

from CHINA



その間貿易会社の社員に日本語を教えるアルバイトを経験し、この仕事の面白さや教師冥利を実感したそう。立命館を卒業後、本格的な挑戦の場を中国本土の広州に求め、渡航。そこには成熟途上の大きな可能性があった。

乗り越えた苦労は
すぐに忘れる

「ここ広州にいくと、様々なエネルギーに満ちた街の中で、自我を強く意識できるのです。私のような二〇歳代の経営者も五万といえ、成功も失敗も全てが自分に降りかかってくる状況を醍醐味ととらえ、みんな思う存分やっていますよ。」

開校に漕ぎつけるまでには、NHKの人気番組「プロジェクトX」のような困難な状況があった。契約やその履行に対する認識の違い、くすぶる抗日感情への対応。日本語講師の仕事以外に、渉外経理、講師採用、生徒募集、掃除まですべてを行う八田さんが遭遇した苦労は想像に難くない。

しかし八田さんは、「苦労ですか？ 大変だったのは確かですが、忘れました。苦労や困難は乗り越えた時に忘れるようにしています。いちいち覚えていたら次の困難に立ち向かうことができないので」と笑っている。「中国のことは中国の秤で量ればいい。どこの国で暮らすにしても、日本だったら」と

八田 真太 さん（02経済）

■ 広州ジョイフル国際日本語学校 代表



1977年生まれ。2年間の台湾留学を挟んで02年卒業。03年春、広州ジョイフル国際日本語学校を独力で設立。現在「広州日本人教師連絡会 GJTA」代表も務める。shinta0908@joyful-net.com

か、日本と比べて、という発想はするべきではないと思います。現地の文化を思いきり受け止め、地の人と共に汗をかくことです。もちろん、その国に何をしに行くのかをしつかり胸に刻んでから日本を離れることが大前提です。」

海外経験は
「予防接種」と同じ

未知のものに出会い、そこから刺激を受ければ強くなる。これはこの世に生きるものにとって自然なことではないかと八田さんは考えている。「若いうちに海外に出て違う文化の中で自分に負荷をかけた生活する。ある意味で予防接種のようなものじゃないですか。」



たそがれの広州市内

個性を大切にする立命館の学風や、体育会ゴルフ部で鍛えられた自己責任の精神のおかげでここまで来られたと振り返る八田さん。広州に根を下ろし、大樹になることを目指す。

海外へはばたく 立命人たち

日本の仕組みに憧れて

四年前、子供の頃からの留学の夢を実現させ、リーさんは立命館アジア太平洋大学（APU）一期生となった。

母国マレーシアのマハティール前首相が進めたLook East Policyのもと、中学生だったリーさんは日本の歴史や文化、日本の経営などの概要を教わった。「日本はこういうことをしてきたから国が発展したの？ 本当にと、大変興味をもちました。将来、実際に日本企業で働き、日本の仕組みを肌で味わってみたいと強く思いました」。マネジメントを専門に学ぶことにし、多文化環境が魅力のAPUを目指した。

「なるほど」を求めた日々

キャンパスで出会った友人、そしてホームステイ先の「大分のお母さん」たち。実践的指導をする教授陣。日本人だけではない。世界各地から集まってきた様々な個性との触れ合いが、リーさんを大きく育てた。



APUの学生時代

「わからないこと、びっくりすること、好奇心をもって、えっ、どうして」から「なるほど」にたどりつくまでの過程を楽しむ

■東芝コンシューママーケティング株式会社経営企画部ブランド推進担当

エンゴリーさん (03 APM)

Eng Ngor Lee



1979年生まれ。マレーシア国籍。一期生としてAPUアジア太平洋マネジメント学部に入学、03年早期卒業。同年（株）東芝入社（家電事業が10月分社化し、現在は東芝コンシューママーケティング株式会社勤務）。<http://www.toshiba.co.jp/tcm/>

ようにしていました。よく観察し、納得するまで話を聞き、調べました。おかげで、様々なものの考え方をはじめ、コミュニケーション能力、リーダーシップ、理解・分析する力、それに伴う自信など、いろんなものが身に着きました。APUでの経験は素晴らしかったです。

「しょうがない」に負けない
チャレンジが好きだから

リーさんは三年間努力を重ねて早期卒業し、東芝に入社。東京で働き始めた。現在、ブランド推進担当として広報業務に携わっている。海外でリリースする商品広報の文案を、現地法人の協力を得て作成・チェックしたり、WEBの企画運営をしたりするのが主な仕事である。「発信はもちろん、入ってくる情報もまた面白いのです。統計数値と組み合わせて考えれば、世界各地の生活水準や、どこにどんな市場があるかも推測できますから」。華系マレーシア人のリーさんは、中国語、マレー語、英語、日本語を使いこなし、韓国語などの知識もある。「情報を早くたくさん得るという意味でも、語学の力は大いだと思います」。

職場で文化の違いに戸惑ったことはあまりない。「入社前には、連日深夜までの残業や、厳しい上下関係などを想像していましたが、

日本で、APUで、 6倍に育ちました



それは違いました（笑）。今でも「なぜ、どうして」を発見している私の気持ちを、先輩たちはよく理解してくれます。でも、日本で便利な「しょうがない」という言葉、これはなるべく使いたくない。解決法を探したいという私のこの個性を、職場の役に立つ形で発揮したいと思っています。東芝のブランドイメージを高めるために。

休みが取れば第二の故郷別府へ。来日当時、初めて温泉に誘われた時は、恥ずかしさで逃げ出しそうになった。そんな思い出も交えて振り返る。「マレーシアしか知らない私をひとすれば、一〇のうち六くらいにはなれたかな」。東京近辺で行われる校友会行事にはいつも参加し、立命館の絆も大切な糧として、ますます成長中のリーさんである。

足 発 部 行 執 新 会 友 校

このたび、八年間にわたり会長として

校友会活動をご指導くださった河原四郎氏（56経済）が、世交代をはかるとのご英断のもと勇退され、

副会長・監事のうち一〇名の方も退任されました。

後任の会長には山中諄氏（65経済・南海電気鉄道株式会社

代表取締役社長・学校法人立命館理事）が選任され、

新しい三役による執行部が船出しました。

山中新会長に、就任にあたっての抱負や、

目指す校友会像についてうかがいました。

※校友会役員交代については10・11ページをご覧ください

Interview

校友と大学とを

強固に結ぶ校友会に

— 山中諄 新会長に聞く



■ 校友の活動を支える舞台

— 会長「就任にあたってのお気持ちや抱負をお聞かせください。」

山中 正直に申し上げて、図らずもという感のある会長就任ですが、歴史ある立命館大学校友会の責任者として一生懸命に務めたいと思います。河原前会長をはじめとした旧執行部の皆様は、校友会に対して、大学に対しても、様々なご功績を残して下さいました。それらに敬意を表し尊重しながら、新しい時代の校友会が果たすべき役割や守備範囲を十分に踏まえ、任に当たってまいりたいと考えています。校友会は非常に大きな組織でありますので、私はプレッシャーを感じているわけですが、皆様方にお助けをいただきながら、より良い方向に舵取りをしていくよう努力いたします。どうぞよろしく願います。

— 校友会の役割として重要なことは何だとお考えですか。

山中 校友の皆様と大学との間にあるいは校友同士を結ぶパイプ役ということが一番大きいと思います。校友の側から見れば、一旦卒業してしまっただけには普通は大学との関係は保たれにくいものです。しかしそれではもったいない、淋しいではありませんか。学生時代

に培った友人同士や先輩後輩の関係、あるいは大学との関係をうまくいかせるような舞台作りが必要だと考えています。この舞台がアドバイス交換とでも言うべき機能を備えたものであれば、なお良いと思います。

校友会は会員の皆様に対して、大学や会員の動向についての情報提供をしっかりと行い、パイプをつなぎ、舞台作りに努力します。皆様にはそれを自己啓発に役立てていただきたい。若い後輩を支えることは、個々の校友にとっての責任であるとも思いますので、それに積極的に取り組もうとする校



APU



友を支える組織としても、校友会の存在価値があるのです。

——校友会と大学との関係についてはいかがですか。

山中 校友会というものは、大学なくしてはありえないわけですから、大学とともに歩む協調路線の維持はもちろんのことです。大学側も必要な時には校友会を活用されたらよいのです。校友会は大学にとって一番の応援団であるべきなのですから。ただし、そうあるためには、お互いが節度をわきまえる必要があります。立命館

Profile

山中 諄（やまなか まこと）
南海電気鉄道株式会社 代表取締役社長

1943年三重県生まれ。65年立命館大学経済学部卒業。同年4月、南海電気鉄道（株）入社。95年取締役鉄道事業本部次長、97年常務取締役バス営業本部長。2001年より現職。01年（社）日本民営鉄道協会理事、04年（社）関西経済同友会幹事。02年より学校法人立命館理事を務める。学生時代には体育会自転車競技部のマネージャーとして関西学連を立ち上げ、委員長を務めるなど活躍。趣味はゴルフ、家庭菜園づくり、散歩。

の良き伝統である「大学の自治」を守りつつ、その上で校友会としてお手伝いできることをどんどんやりたいと思います。

■若い世代の声を

——校友会運営で新しく心掛けたいとお考えのことは何でしょうか。

山中 前会長は大変立派でありました。ただ、私がまったく同じことを続けたのでは、会長が変わる意味がないわけです。世代交代という大きな流れの中で校友会をさらに発展させるための、新たな仕組みを打ち出したいと思っています。立命館アジア太平洋大学ができ、外国籍の卒業生もたくさん巣立ちました。加えて附属校も発展を続けています。いま、オール立命館の連携ということがよく言われていますけれども、このこと

も踏まえて、これまでになかった視点を取り入れた校友会活動をリードしていくことが我々新執行部には求められているのです。

私は河原前会長より一回り下の世代であり、新しい役員の平均年齢は七歳ほど若くなっているはずですが、しかし、若いと言っても校



友会全体の年齢構成からいったら我々は古い人間ですよ（笑）。自分たちの感覚だけに頼っていれば時代に遅れてしまいます。ですから、若い方々の意見をどんどん聞かせていただくことが非常に大切だとこれは強く感じています。

——現在の立命館大学の姿、若手校友や現役学生の姿をどの

ようにご覧になっていますか。

山中 大学は、この少子化の時代をいかに乗り越えるかという大きな課題に果敢に立ち向かって、非常に良くやっておいでだと思っています。元気ですね。若い皆さんを見ていると、我々の時代と比べて、自分の考えを持ったしっかりした方が増えたという気がします。資質も洗練されてきています。今後さまざまな分野で活躍なさるであらうし、しかるべきポジションに就く方も増えるであらうと、楽しみにしています。

——校友の皆さんに、校友会活動へのお誘いをお願いします。

山中 校友会は、立命館を卒業した我々が、立命館と共に歩みつつ胸を張って堂々と生きていくための会だと思っています。各地区や職域ごとに、立派な会がいろいろありますから、親睦をはかることはもちろん、さまざまな学習や情報交換のために、皆さんどうぞ校友会を活用してください。そして、そこで育てたネットワークを使って、社会に出たばかり、あるいはこれから巣立つ後輩や、今後立命館に入って仲間になろうとする若者たちの手助けを、ぜひ一緒にいたしましょう。そして立命館校友のパワーをともに発揮しましょう。よろしく願います。

本部執行部 大幅に若返る

二〇〇四年度 常任幹事会・幹事会報告

五月三日(土)

於…からすま京都ホテル

① 本部役員改選について

立命館アジア太平洋大学 (APU) 創設をはじめとした立命館学園創立一〇〇周年の諸事業が無事終了し、新たにAPUの卒業生を校友の輪の中に迎え入れる段となり、各大学・学校の同窓会組織を中心とするオール立命館の連携は新たな段階に入っている。

河原四郎前会長は、この現状に鑑み、若年構成員の活動の活性化や会活動のグローバル化により迅速に対応できる、高い機動力を備えた執行部の形成が必要であると判断され、ご勇退を決定されるに至った。

また、会長・副会長・監事の三役については六〇代以下で構成すべきこと提起され、これを他の三役が支持し、同日付で河原会長以下は執行部は総退任された。

これを受けて、本部執行部の大幅な若返りと再組織がなされ、今後オール立命館で取り組む諸課題のいっそうの前進がはかれることとなった。

新三役は、会則により、新会長に推挙・選任された山中諄氏の指名に基づく新たな常任幹事による

最初の常任幹事会で、山中会長からの提案を受けて選任されることとなった(六月四日の項参照)。

② その他審議・報告事項

予決算(表参照)、新卒幹事、推薦校友、今年度校友大会(G21参照)に関する事項が、滞りなく審議承認された。

校友会2003年度決算・2004年度予算

収入の部		
科目	2003年度決算額	2004年度予算額
前年度繰越金	19,782,136	10,130,162
会費収入計	215,507,000	208,200,000
資産運用収入計	1,781,606	1,850,500
大会収入計	10,508,850	12,500,000
その他収入計	6,942,932	350,000
合 計	254,522,524	233,030,662
支出の部		
科目	2003年度決算額	2004年度予算額
人件費支出計	18,680,733	19,700,000
一般経費支出計	32,303,264	34,350,000
組織強化費支出計	34,400,162	43,500,000
事業費支出計	63,508,203	63,100,000
特別会計繰出計	94,500,000	64,500,000
予備費	1,000,000	7,880,662
翌年度繰越金	10,130,162	
合 計	254,522,524	233,030,662

注) 支出の部「2003年度特別会計繰出」として以下の通り執行いたしました。
 ①終身会費積立金: ¥90,000,000 (積立金計: ¥604,588,816)
 ②会館建設基金: ¥2,000,000 (基金計: ¥81,555,136)
 ③名譽執行準備金: ¥2,000,000 (準備金計: ¥15,717,724)
 ④記念大会準備金: ¥500,000 (準備金計: ¥4,101,250)

六月四日(金)

於…ホテルグランヴィア京都

山中諄新会長の下での、初めての常任幹事会を開催した。

副会長・監事を選任し(次ページ参照)、新執行部体制を確立した。なお、新執行部の任期は前執行部の残任期間である。

長い間有り難うございました

母校の発展に対応する校友会づくりをすすめた旧執行部

河原四郎前会長(経済)をは

じめとする旧執行部は、この八カ年間、校友会活動の諸改革を先頭に立ってすすめてこられました。

河原四郎前会長は、大同生命保険相互会社会長在任中の一九九五年に校友会副会長・大阪支部長(当時)に、翌九六年には校友会会長に就任され、以後、去る五月二日のご勇退に至るまで、常に二六万校友の先頭に立ってこられました。

この間、開設五年目のびわこ・くさつキャンパス(BKC)への経済・経営両学部の移転新展開APU開学を中心とする立命館学園創立一〇〇周年記念の諸事業、更に今年の情報理工学部の新設法科大学院開設等に至るまで、母校立命館大学・立命館学園は他の追随を許さぬ程の目見しい発展を遂げてきました。そして、その折々に前執行部は、校友会がいかにして母校と後輩を支援するべきかの指針と具体的施策を的確に示してこられました。学園創立一〇〇周年を記念してAPUへ「世界と未来へ開かれた」正門を寄贈できたことや、校友会奨学金制度を抜本的に改善し、現役学生への支援を強化されたことなどは記憶に新しいものです。

会の運営についても進歩的な諸



河原四郎前会長

改革を進め、今日の校友会活動の土台を築かれました。とくに九九年には、来るべき時代を見据えた大幅な会則変更(機動的な意思決定システムとしての常任幹事会の新設、各専門委員会の改廃・再編、独自活動の活性化をはかり各県「支部」を各県「校友会」と改称、校友会開催方式の改善、等を断行するとともに、若手校友の自主的な活動の促進、また、各界で活躍する著名人の校友会活動への積極的な参加などに腐心されてきました。

退任役員の中には、二〇年以上にわたり種々の会務にご尽力下さった方もおられます。とりわけ各地の校友会と本部との橋渡しは、主に副会長の方々が担っておられました。

会則変更後の校友会の新しい息吹と、順調に第二世紀の歴史を刻む母校の姿を見届けられた今、前執行部は、取立て世代交代の適期とご勇退を決定されました。

退任役員の皆様のご長らくのご活躍に敬意を表し、心から感謝申し上げます。

立命館大学校友会 本部役員

(敬称略)

◆会長

山中 諄 (66経経)
南海電気鉄道 (株) 代表取締役社長

◆副会長

浅賀 博 (58理工)
元京都市交通事業振興公社常務理事

岡 泰造 (58経経)
(株) きんでん相談役

渡邉 申孝 (58経経)
東洋精機 (株) 代表取締役社長

西村 義行 (60経経)
農業

清家 邦敏 (61経経)
大成印刷 (株) 代表取締役社長

布垣 豊 (61法)
京都中央信用金庫理事長

吉川 勉 (63法)
元滋賀県教育長

尾崎 敬則 (70法)
弁護士・尾崎総合法律事務所所長

住野 公二 (70経経)
(株) オートバックスセブン
代表取締役CEO

吉田美喜夫 (74法・77院法)
立命館大学法科大学院教授

◆監事

久岡 康成 (67法)
立命館大学法科大学院教授

佐竹 力総 (70法)
(株) 美濃川代表取締役社長

◆常任幹事

大庫 典雄 (51経経)
オクラ運輸機 (株) 代表取締役会長

安田 祐造 (52法)
ヤスタ機罩 (株) 顧問

茶谷 利夫 (58経経)
京阪セロファン (株) 相談役

中村 義孝 (62法・67院法)
立命館大学法学部教授

中野 友廣 (62文)
園田学園女子大学校友連連推進室室長

岸野 洋 (64法)
(株) 京都新聞社取締役滋賀本社代表

稲岡 典彦 (66経経)
京都中央信用金庫常務理事

辻 淳夫 (66経経)
(株) 滋賀銀行常務取締役

本津 絢子 (67経経)
(有) スークス代表取締役

渡辺 三彦 (68理工)
弁護士・渡辺国際特許事務所所長

北尾 陽扶 (71経経)
北尾商事 (株) 代表取締役社長

小畑 力人 (72経経)
和歌山大学法学部・学長補佐

山下 勇 (72理工)
(株) きんでん新エネルギー推進室副部長

山本 啓幸 (73理工)
(株) 鷹島狭山処理場JV事務所所長

高杉 巴彦 (74文・78院文)
(学) 立命館常務理事

成瀬 正 (76法)
(株) 東海プロセスサービス企画
代表取締役社長

水田 雅博 (76経経)
京都市伏見区長

加藤美佐子 (77文)
大徳寺塔頭玉林院保存会

小幡 豊 (78経経)
小幡写真事務所所長

村上 高久 (82法)
サンエス石膏 (株) 代表取締役社長

佐野 哲夫 (82経経)
(株) 佐野製本所専務取締役

山岡 祐子 (83経経)
(株) 白川書院副社長

山添 祥統 (86経経)
(株) UFJ銀行福岡営業部次長

小原 隆治 (87法)
立命館大学教務課

加藤ニコル (88国園)
立命館大学産業社会学部事務室

油谷由里子 (96法)
(株) 新歌舞伎座営業部

恒吉 孝司 (96経経)
オリエント機器コンピュータ (株)

経営企画室室長

金銅 幸夫 (90産社・92院社会)
(株) チョーヤ梅酒代表取締役社長

西村 義行 (60経経)

安田 祐造 (52法)

尾崎 敬則 (70法)

小畑 力人 (72経経)

渡辺 三彦 (68理工)

立命館大学校友課
事務局長 志垣 陽 (70文)

退任

河原 四郎 (96経経)

高橋宗治郎 (90経経)

柊 茂 (90経経)

蟹江 嘉信 (92経経)

中川 祐夫 (93法)

道端 進 (93経経)

高木茂太市 (95文)
久岡 康成 (67法) ※事に就任

◆監事

巻野 力 (98経経)
中川 誠二 (96法)
吉田 幸彦 (97法)

ライブハウス「拾得 オナー」

寺田国敏

さん(67経営入学)

文江

さん(71文)

音楽が楽しいものである限り続けられる

喫茶店文化全盛の 六〇年代の京都

拾得 (じつとく)。京都を代表する老舗
ライブハウスは一九七三年に始まり、今年
で三年目を迎えた。オナーで同じ年ど
うしの寺田国敏(通称・テリ)・文江夫
妻が立命館大学に入学したのは一九六七
年。国敏さんは北九州から経営学部の衣笠
へ、福山出身でミッシヨン系の女子高から
進学した文江さんは文学部に入り、広小路
に通う。

国敏 当時 月謝が私大が一番安くて、僕
は来やすかった。総長が末川さん。すごく
魅力的な人。梅原さんがまだ在職中。僕は
文学かぶれだったので、そういうのに憧れ
ていました。

文江 私は文学部に地理学科があったか
ら。京大に理学部系があったので、それで、
人文系は立命だけだったので、それで立命
しか頭がないという感じでした。

ちょうどこの一九六〇年代後半から七〇
年にかけて、学園紛争の炎は全国の大学で
燃え上がる。大学では授業が行われない状
態。当時の京都は、喫茶店文化が全盛で、
若者は仲間たちと出会い、人生を語り、生



きていく為の試行錯誤を繰り返していた。
東洋や禅に憧れる外国人も多く滞在し、
独自のコスモポリタンの様相を呈してい
た。関西フオークに代表される数多くの歌
とグループは、ここ京都から誕生するの
である。

国敏 実は「帰ってきたヨッパライ」のフ
ォークル(※ザ・フォーク・クルセイダーズ
とか、高石ともやとかが結構ラジオで入っ
てきたので、この京都へ、というのもあり
ました。学校ではキャンパス中でみんなが
歌っている。御所とか芝生の上でも三〇ぐ
らいのグループが、今でいうとアベックが

座っているように重いウッドベ
イスとかを持って三、四人でね
立命、同志社、だけだったのか
な。ともかくそこは若者で一杯
でした。

授業がなく、ジャズ喫茶へは
毎日通い、梯子をしたという国
敏さん。当時、自らもフオーク
ソングの歌と演奏をしていた。
国敏 音楽も分かっていなかっ
たけれど、通うことがカッコイ
イ感じ。とにかく、LPレコー
ドというのがすごい宝物という



国敏さんは「しあんくれー」で三年間アルバイトをする。そして立命の軽音でヴォーカルをしていた文江さんと出会った。「しあんくれー」は立命館大生で自殺した高野悦子の『二十歳の原点』によく登場する。

文江 当時はみんな様々に悩みみたいなのがあったと思います。もうこんな大学はいやじゃと辞める人と、高野さんみたいな方いろいろな人がいて、様々な軋轢があり

紛争と音楽の中 自分を見つめる

時代で「拝聴する」という感じでした。

文江 国敏さんとの出会いは学校でなく、むしろジャズ喫茶っていうかロック喫茶で会ったようなものですよ。『しあんくれー』（*当時有名だった広小路近くのジャズ喫茶）とか、「MAP」（東京都発のロック喫茶）や「縄文」といったお店。そういう不良の溜まり場で会ったの、ほんとうに笑。

ライブハウス拾得の黎明

国敏さんは「しあんくれー」での実績を買われ、雇われマスターとなった国敏さんは、最終的に一年半続いたその「責」を黒字へと導く。そしてこの店での経験は「アマチュアでもいいんだ」との自信になり、拾得の創建に乗り出すのである。

ました。でも大学という場の持つ意味や自分の人生について足元を見つめるいいチャンスでもありました。今の大学は大学の本質というものを考えると、すごく遠くなったような気がするんです。

拾得の場所は酒蔵をやめて二〇年近くの建物。国敏さんの友人のフランクが下宿していた。おばあちゃんが一人で住み、その建物の一部、小さい蔵を「貸してくれへん?」と冗談半分にいったら「いいよ」との返事。ラッキーだったと当時を振り返る。



国敏 音楽は何でもありでした。ただ、ドラムが入るとかは想定しなかった。会話を阻害しない程度でというのが条件でした。最初の頃は、初めてドラムを入れたのは、「ウエストロード・ブルース・バンド」とか、その類なんです。でもブルースだから音は小さいよ、というので、恐る恐る始めたわけです。でもやっぱりひとたびドラムを入れてしまえば次々とエスカレートしてしまつて。

文江 当時は新しいLPをかけるだけでお客さんが興奮し、踊りだす時代でしたからね。

心揺れつつも、 好きな道を選び三三年

文江さんの卒業後すぐに二人は結婚。まもなく長男、次男が相次いで誕生した。

国敏 僕も卒業するつもりだった。好きなことばかりしていて本当に良いのかと気持ち揺れていた。でもやっぱり好きな音楽で生活をしていこうと、結局大学をやめ、

Kunitoshi&Fumie

Terada



寺田国敏・文江 夫妻

- 国敏さん1948年福岡県に生まれる。少年時代からギターと歌に親しむ。文江さん同年広島県に生まれる。
- 67年国敏さん経営学部、文江さん文学部に入学。国敏さん「しあんくれーる」でアルバイトを始める。
- 69年二人してロック喫茶「貢」で働く。国敏さんがマスター（1年半）。
- 71年文江さん卒業。国敏さん4回生まで在籍するも中退。結婚する。
- 73年2月「拾得」開店。オーナーとして現在に至る。



<http://www2.odn.ne.jp/jittoku/>

「まだで罵り合うような夫婦です。とことん議論を重ねるのがこの世代の特徴かも」とは文江さん。三三年という歳月が流れた。国敏さんは、今もバンドの活動を続け、「磔磔」のオーナーたちと、次のツアーを計画中。これからもやれるだけやりたい。そして京都に居続けていることが、また、この店をやり続けていることがすごい価値のあることのように思うと語る。

六〇年から七〇年代、変わらぬ心。ある象徴的な生き方をしてきた二人を変わらぬ蔵が静かに見守っている。

文・山岡栞子 写真・小幡豊

音楽は魔術だ！

これではいかん、と思った国敏さんは自ら帳簿を切り始めた。こうしてなんとか借金をせずに三〇年来たという。これからも出演者に場を提供し続け、観客にとっても音楽が楽しいものである限り、店を続けられるという気がする、と語る。

文江 私は子供をおぶりながら、笑って頑張っていました。心では笑っていないかったけれどね（笑）。彼は音楽がないと暮らしていけないから。

踏み切ったのです。ところが好きなことばかりやっているので、お金がどんどん足らなくなる。僕はそのことに気づいていなかったのです。僕はアホ男の代表で、友達にただ酒を飲ませ、ただで泊まらせていた。

変わらぬ蔵に見守られて

音楽が持ついるとてつもない力が、めらめらと出てくる瞬間に出会ったのです。それは聞こえてくるもの以外にものすごい力を秘めているように思えた。「人間の数だけ音楽があり、その人そのものが音楽である」という思い込みは今も続いている。色々な表現方法を、パッチワークのように組み替えている段階。結果はまだ出ませんが、魔術は続いています。個人的な根拠この体験もあります。僕は炭鉱の町で育ち、何度か転校をしたけれど、いつもギターを弾いているうち、すぐに声をかけられ友達が多くなった。こりゃいいな、と。

初めて「ライブハウス」と呼ばれた拍子で

プロの手に頼らず、国敏さんが親の退職金を借り、中田耕美氏や平賀久裕氏（山谷ブルース）の作者、などと手作りで改造したこの酒蔵には、今も変わらない空気が、時

ベニアで作った人口の扉、丸い大きなテ

ーブル、千本通にあった電車の敷石を使った床。ステイジまわりには次第に集まってきたという年代物のスピーカー、アンプ、楽器。これらをほの暗い明かりが温かく包み込む。演奏者、観客は、こうした空間で、今も生の音を愉しんでいる。

国敏 その時代その時代の音楽シーンに真正面に向き合ってきたつもりはあって、例えばロフト文化が流行った時は、ここもオースタンディングにしようかと思ったり、いろんなことを考えたけれど…。

文江 結局、何もなかった。

国敏 この、テーブルや椅子をどかさうとしても、デカすぎたんですね（笑）。この酒蔵の建物に守られて、結果的に三三年間やってこられたんです。

大学紛争の学生時代からずっと京都の音楽シーンを見つめてきた夫妻。団塊の世代であるその姿、在りようは、不思議と自然体だ。今回のインタビュウでの夫婦の撮影に国敏さんは「ものすごく照れます」。

「まるで罵り合うような夫婦です。とことん議論を重ねるのがこの世代の特徴かも」とは文江さん。三三年という歳月が流れた。

国敏さんは、今もバンドの活動を続け、「磔磔」のオーナーたちと、次のツアーを計画中。これからもやれるだけやりたい。そして京都に居続けていることが、また、この店をやり続けていることがすごい価値のあることのように思うと語る。

六〇年から七〇年代、変わらぬ心。ある象徴的な生き方をしてきた二人を変わらぬ蔵が静かに見守っている。

恩師の窓

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します。

濱崎 正規

名誉教授(経済学部)

- はまさき まさき
- 1953～2004年
- 【担当科目】
社会思想史・経済思想史など



ほとばしるお声
ユーモアと人間性豊かな
先生はご健在です

先生は「シウムペーター体系」の再検討を試み、その上で、いわゆる新古典派理論が抱えている問題点と欠陥を鋭く指摘されて来られ、また立命生粋の先輩として学生に接し「ほとばしり出る声」での講義、その先生がこの三月に立命の教壇を去られました。

五月一六日(日)、花園会館で第二回目の「先生を囲む集い」が開催されました。第一回目は八年前に経済学博士の学位を取得されたのを祝して「歩み来て、今考える」セミナー。今回も前回同様、濱崎ゼミ・経済学研究会・バトミントン部の卒業生で実行委員会結成。主テーマを「二世紀・激動の時代を生きる」ふりかえり、今思う」と設定して、セミナー・同窓交流会が開催され、百名を超える卒業生が各地より集まりました。

先生が「真のイノベーションとは何かー破局の苦悶、創造への喜び」というテーマで基調講演をなされ、出席者一同感銘深く受けとめました。あとのフォーラムにおいても、コメントーターとして参加され、現実の経済社会を鋭く洞察、理論と現実の緊張関係を保ちつつ問題解決のビジョンの必要性を力説されました。

最近、先生は梅津の高層マンション上部に研究室を設けられ、「愛宕山に雲たなびくを賞でている」とのお話。いつの日かの第三回セミナーのためにも、健康にご留意され、わたくしたち卒業生の巨星でありますように。

教え子

園城 由隆さん(57経道記)

濱崎ゼミ一期生。媒前まで願い、五年経った現在も先生を元貴のように敬慕しています。

酒井 達雄

理工学部教授

- さかい たつお
- 1971年～現在
- 【担当科目】
機械設計法・材料強度学など



機械の寿命ってどれくらい？こんな単純かつ難問に真面目に向き合うきっかけを与えてくれたのは晴れた昼下りの講義でした。

機械の寿命には個体差があり、予測することの難しさと探求する意義を懸命に伝えようとする先生の姿が深く印象に残ったのです。気が付けばいつの間にか先生と同じ難問に取り組んでいました。これはきっと先生の熱意に引き込まれたからでしょう。

私は一度大学を卒業しましたが、先生のお誘いを受け、社会人留学をさせて頂きました。日々忙しく活躍されている中、週末の貴重な時間を割いて研究指導を頂き、感謝しております。このような面倒見の良さが学生を惹き付けるのかも知れませんね。研究活動は非常に楽しく、時間を忘れて没頭しました。在学中は新しい発見があると興奮しながら熱く議論を交わしたことが数多くあり、そのときの先生の純真な笑顔が今でも思い出されます。また、研究活動以外にも機友会行事や学生会行事に積極的に参加し、笑顔で人と接する姿を数多く見ました。このように、先生の人柄は「真面目で一生懸命、朗らかでチャイミング」と言えるでしょう。

先生の下で学んでいる後輩は幸せ者だと思えます。また、これから学ぼうと考えている人は是非、先生の人柄に触れてみて下さい。きっと後悔しないと思いますね。

真面目な熱意と

朗らかな笑顔が魅力の

チャイミングな先生です

教え子

武田 光弘さん

(03院理工・工博記)

96に学部卒業。東レ株式会社に勤務しながら、酒井教授のもと大学院で研究。03工学博士号取得。



裁判員制度

—市民のための司法をめざして—

指宿 信

大学院法務研究科教授



裁判員制度導入の背景には、
どのようなことが
挙げられますか。



裁判の制度については戦後
ずっと議論されてきまし
た。日本において市民参加

の制度は決して新しいものではありません。立命館大学の陪審法廷からも伺えるように、戦前、わが国は陪審制度を行っていた時期があります。大正デモクラシーの中、自由民権運動が活発化し、普通選挙法が施行され、同時に陪審制度が導入されたのです。今も裁判所法第三条に実施できると明記されています。ところが、太平洋戦争中に陪審裁判は行われなくなりました。その理由として、陪審裁判を行なうには陪審員の宿泊や食事の用意など必要だったために、裁判所に宿泊施設等を完備したりと大変お金がかかったこと、しかも、陪審裁判では陪審員の判断に不服な場合、裁判官は陪審を交代させる事ができ、裁判官の思うように判決が下されたことです。その後、陪審制度は停止されたままです。このような中、一九九〇年代頃から被害者の心情を汲み取った裁判をおこなうべきだという声や陪審制を復活させるべきとの意見から、もう一度、陪審制度を視

野にいれ、世界に例を見ない日本独自の
制度を検討しはじめたのです。

諸外国における
裁判はどのような
ものですか。



世界的にみて、裁判に一般
市民が参加するのは当然の
事とされています。日本の

ように職業裁判官だけが審理するのは大変珍しく、先進国では他にオランダのみです。世界の裁判制度には、主に陪審制度と参審制度の二つに分けられます。陪審制度は、義務として事件毎に選ばれた市民の陪審員だけで有罪か無罪かを決めます。職業裁判官は、法廷で進行役を務め、もっぱら量刑を決めます。つまり分業化されています。このような陪審制度は、英国や英国の植民地であった国などで導入されています。一方、参審制度は、職業裁判官と市民から選ばれた参審員が一緒になって審理します。この参審員は、主に政党などの推薦によって選ばれ、一年間といった任期を持って比較的長期間その職につきます。ですから、陪審制度と違って、参審員には義務はないけれども、推薦によって決められるので、一定の階層や職業に偏ってしまいます。



2003年3月に、司法制度改革推進計画が閣議において決定され、司法制度改革審議会において、わが国の司法における歴史的転換点ともいえる、司法の基本的制度の抜本的な見直しが始まった。

この司法制度改革は、法曹界全体のあり方や国民自身の意識改革、社会全体のあり方にまで及ぶ大きな制度改革といえる。

中でも、「裁判員制度」は、法科大学院の実現と同じく、この改革の中心ともいえるものである。

「裁判員制度」は、開かれた市民の司法をめざす上で、市民が裁判に主体的・実質的に参加できる制度を追求している。すでに、2004年3月2日閣議決定された「裁判員制度」について、指宿信教授にお話を伺った。

このような参審制度は、ドイツなどで導入されています。また、北欧は、その両制度を導入しています。日本の裁判員制度は、参審制度に近い制度ですが、二つの制度の折衷型ともいえます。

裁判員制度を導入することについて、問題点はありますか。



五年間の周知期間に議論すべき事はたくさんあります。中でも裁判員制度が導入される刑事裁判は、事件そのものが殺人事件であったり、重大な凶悪事件であるために、審理の中で目を背けたくなるような残酷なものを目にしたり、聞くに堪えない証言等を聞かなければなりません。そのために、裁判員自身が精神的苦痛によりPTSD(心的外傷後ストレス障害)に陥る可能性が想定され、市民に對する事後的ケアも必要となります。また、裁判後も守秘義務を負うこと、マスメディアの裁判員との接触の規制や報道の自由、表現の自由にも議論の余地は十分にあります。集中的な審理が予定されているので、裁判前に被告人側に十分な準備、特に検察官が持っている情報へのアクセスを認めることも必要でしょう。それ

て、国民の義務を果たすという意味においても、司法教育というものを充実させていく必要があります。国民主権のもと、司法においても裁判に係っていかねばならないという国民の意識改革を図る必要があります。大正時代に陪審制度を導入するにあたり、全国で千回以上も啓蒙映画を上映したと聞きます。裁くということとは、国家権力で裁かれるということとです。この国家権力は、市民の意思を反映した力です。裁判では、その力は人の命をも奪う事ができるほど恐ろしい力となります。だからこそ、市民は司法に参加し、真の民主国家をめざしていかなければならないと思います。



Profile
いぶすき まこと

大学院法務研究科教授

【専門分野】

刑事手続法・サイバー法・法情報学・刑事訴訟法

■ 主な著書・論文

- 『刑事手続打切りの研究』(1995年 日本評論社)
- 『サイバースペース法』(2000年 日本評論社)
- 『法律学のためのインターネット』(2000年 日本評論社)

立命館 あの頃

学生生活を追って
1985年～1990年頃



国際関係学部

バブル経済に湧く社会の中で学生生活を
送った世代の在学期である。
平和で豊かな時代。何かに追い立てられ
たり、強い信念に突き動かされることも
なく、穏やかな四年間を過ごす学生が多
かった。
立命館大学は大きく動いていた。
「情報化」と「国際化」を軸にした教学
改革が強力に推進され、学生はそれによ
る変化をはっきりと肌で感じていた。

社会情勢・ 学園と学生の動向

一九八〇年代後半は、大学進学
者数の二度目の急増期であった。
一九九〇年の立命館大学学生数は
二万二千人を超えている（うち
女子は四千六〇〇人。いわゆる
スポーツ特別選抜入試や文化・芸
術特別入試もこの時期に始まり、
個性豊かな学生たちがキャンパス
で生活を共にすることになった。
立命館大学は、谷岡武雄総長の
もと、第三次長期計画に基づいた
「国際化」「情報化」の推進に取り
組んでいた。



海外の大学や研究機関と協定を
結び、教学内容の国際化をはかる
とともに、交換留学や海外セミナ
ー（語学研修）を制度化した。そ
して八八
年には、
西日本で
初めての
本格的な
国際関係
学部が誕
生した。
氷室町
に建った

白亜の西園寺記念館と、そこで学
ぶ学生たちや気鋭の教授陣は、立
命館に明らかな新風を吹き込ん
だ。国際関係学部教員が他学部で
授業をする、あるいは他学部学生
が国際関係学部で学ぶという相互

のシステムが整えられ、外国人語
学教員や留学生が急増し、外国語
授業をはじめキャンパス内の様相
は一変した。

前年の八十七年には、理工学部情
報工学科ができていた。高度情報
化社会の到来に備えて情報処理教
育に力が入られる中、その実り
としての新学科設置であった。

八十九年には、理工学部の現びわ
こ・くさつキャンパスへの拡充移
転が発表され、新たな発展を目指

学国際夜祭



す気運が高まった。そして翌年
には立命館創始一二〇年、学園創立
九〇周年の記念事業が行われた。
各種演奏会やスポーツ対抗戦な
ど、学生が主体となったイベント
も学内外で多く開催され、行動
的な学生の姿が強く印象づけら
れた。

時はバブル時代。就職は、競争
はあったにせよ学生の売り手市場

就職活動



（年譜）	
1985	◇谷岡武雄総長就任 ◇国際センター設置
1986	◇スポーツ特別選抜入試制度 実施
1987	◇オクラホマ大学と協力協定 交換留学協定を締結 ◇海外セミナー実施
1988	◇理工学部情報工学科開設 ◇国際関係学部開設 立命館中高、男女共学制実 施、深草へ移転
1989	◇国際言語文化研究所設置 ◇文化・芸術特別入試制度 実施
1990	◇理工学部拡充移転発表 ◇創始一二〇年・創立九〇周 年記念祝賀会開催

議 談 出 い 思

なるようになれた平和な時代

国際化の波

であった。理工学部生が金融業界に進むなど、新しい動きも生まれ、八六年に施行された男女雇用機会均等法のもと、女子学生も志を高め、四回生の夏には汗だくになって会社訪問をしていた。

学生たちの大半は、利益追求一辺倒の社会に臆気な疑念を抱くことはあっても、それを明確にアピールすることはなかった。現実の荒波に揉まれることも、差し迫った大きな不安もなく、それなりに

生きていけるだろうとの思いがあった。一方で、自分自身の意志や夢がわかりにくく、すべてを「何となく」という言葉で片付けがちで、傾向が現れてきた面もあった。とは言え、立命館大学において

はサークル活動の加入率が高く仲間や、先輩後輩のとの関係の中で成長し合おうという気風がまだ十分に生きていた。古き良き学生生活の名残があり、学生が概して平穏な時を送った時代であった

変わってきましたね。一部の一回生は全員、少なくとも半年間は外国人の先生に習うことになって、それも二五人のクラスで。

● エアコンがまだなくて、暑かったなあ。先生方も大変だったろう。

● 試験中だけ、背の高い扇風機を回してくれたけれど、生暖かい風につけて、汗のおいが流れてくるだけだった(笑)。

● そんな時、国際関係学部ができて「パルテノン」と言われてたっけ。あれには驚いたな。おしゃれな建物で、女の子も多くて。

● 他の学部比べてハイレベルでインターナショナルな経験を積んだ人も入ってきたでしょう。違っなあって思った。出身者としてはどうですか。

● 少人数ながら留学生を含めて様々な人がいて面白かったし、みんなやる気に満ちていました。他の学部とは離れていたんで、自分たちだけでマイペース。当時としては珍しく、使える語学を目指した授業も多かったですよ。大者揃いの先生方にも驚きました。

● 語学といえば、他の学部でもネイティブの先生が来られたりして

キャンパスで完結する暮らし

● 学内は自転車と立看板が溢れて、雑然としていました。メガホンで演説している人もまだいたけれど、終わると「失礼しました」と教室を出るんだよね。それでどうこうなることはもうなかった。

● 立命の学生のファッションは、「衣笠カジュアル」と呼ばれていたんですよ。ジーンズすら穿かない、シャツにスラックスの遅れたスタイルのことです。ジャージ着ていても平気なくらいでしたよね。

● 特に理工の学生は、男だけで身なりも気にせず、ひたすら実験を続

けている様子で、研究室に住んでいるといってもいいくらいでした。夜にキャッチボールをしたりしていましたね。

● 概してキャンパスの中で長い時間を過ごしていたように思います。みんなクラブ活動をしていて、学内で完結する人間関係がほとんど。私は地理学科でしたが、フィールドワーク参加の予備登録のために、みんなで清心館に泊まり込み、とぐろを巻いて並んだこともありました。

● 合宿生活、共同生活で育っていききましたよね。下宿文化も残っていて、親が送ってくれる故郷のものを持ち寄って、順番に泊まりあって、それが当たり前だった。

バブルの落とし子たち

● まだまだ経済成長がありそうな幻想がありました。世の中も平和で、だから、必死に何かをしなければならぬという気持ちはありませんでした。なるようになるだろう、といった感じで。

● そうそう。漠然と「どうして大学に来ているの?」と語り合ったりはしたけれど、現実感に伴っていなかったような。だから今思うと、たいして多くのことをやっていないんですよ。親も社会も、いい意味でほっといてくれたしね。

● でも、学生のタテ社会がまだきちんと生きていて、箍(たが)が効いていたね。神様のように見えた大人の先輩がいた。先輩後輩の関係の中で揉まれて、その後の自分の核ができた。

● スポーツ選抜での入学が始まると聞いたとき、体育会では賛否両論喧嘩囂囂話し込んだ。そうしたら、「スポーツマンは勝つことだけ考えていたらいいのや」と一喝した先輩がいて、かっこよかった。

● 立命生の特徴は、何事も集団で智恵を出し合うということにあったと思う。大学で何が身についたかと言え、問題解決のスタイル。根本にあるのはやっぱり全学協定だろうね。高邁な精神だよ、あれは



第二の人生に向けて

藤田哲夫（68法・71経済）

法学部より学士入学した経済学部を卒業して、飛鳥建設（株）へ入社。土木工事現場の事務、広報、開発、営業を経験して三三年経過しました。退社後、すぐにご縁があって、京都の東寺（宗教法人教王護国寺）の職員となって、早二年近く過ぎました。朝から好きな仏像、文化財とにらめつこの毎日です。私の持ち場は、国宝に指定されている金堂（本堂）の中に祀られている本尊の薬師三尊坐像の前の小屋で、毎日の作務、建造物や仏像の説明、物品販売をしています。

建造物や仏像を拝観に来られる方々の中には、いろいろな人生経験の豊富な方もおられ、お堂の中での直接の対話も多岐にわたり、教えられる事が多くあります。

仏像については私はよく「祈りの対象であり、精神に安らぎをもたらしてくれる存在であるから、鑑賞法によってはさらに真価を感じ取ることもできます」とお話ししています。

めぐまれた職場での第二の人生をお寺を訪れた方々に少しでも喜んでいただけるよう勉強する毎日です。一度訪ねてみてください。

夢はかなうもの

三上由佳（96産社）

卒業して早八年が経った。その間

OL生活を送り、結婚、出産を経験し、現在は育児真っ只中である。

在学中はパンサーズに所属し、マネージャーとして学生日本一のチームを支える一端になった。勉強もそこそこに、友人たちと青春を立派に謳歌できたことは感謝している。

卒業後、一社会人として北海道から沖縄まで全国を飛び回った。「女性なのに大丈夫なの？」と言われたこともあったが、心の中ではいつも「こんな楽しい仕事、やめられまへんな！」と思っていた。今思えば夢のような生活だったかもしれない。

結婚して二年半になるが、縁あって結ばれた主人とかわいい我が子を見ていると、いくつも夢をかなえたような感じがする。育児は時に「育自」とも言われるそうだが、子育てしながらもまた新たな夢を抱いている。自宅で音楽教室を開き、一人でも多くの方々に夢を育てていただきたい、そう思っている。今はまだ、幼い娘が生徒であり聴衆でもある。彼女の成長を見守ってゆくこれからの生活も私にとってはいかがえのない夢であり、自らをも育てることであると思う。少々大げさかもしれないが、人生



は夢の連続ではないだろうか？

宇宙開発に従事してきて

小嶋 一郎（65理工）

機械科を卒業、七八年から二六年間日本の宇宙開発と苦楽を共にして来た。ロケットエンジン設計、試験、打上げ、ロケット試験設備建設と従事し、今は民間出資会社で中小型ロケット開発に携わっている。

最近ロケットや衛星に失敗が続き、世の中の批判を浴びていることは残念である。しかし開発の現場はこの失敗を真摯に受け止め真面目に前進している。残念なのは政治家やマスコミの批判するだけの姿勢である。もっと日本の置かれている立場と科学技術を勉強して頂き、どうあるべきかを一緒に考えて頂きたいものである。ロケット開発は簡単なものではない。膨大な資金も必要で、自動車、航空機産業等とは異なる技術開発プロセスを要するシステム工学でもある。これまで宇宙開発で得た成果は多々あるが、今一つ宣伝が足りないためか派生技術を含めた成果が知られていない。

宇宙開発は夢だけが先行し、まだまだ地に着いた産業でない。国

のリーダーがこれに無関心、無知では、日本の将来はおぼつかない。もっと真剣に宇宙産業を見守り、育ててもらいたいものである。

森口 藍子

森口 藍子（99産社）

蛇も犬も食べました。そう、私はいま中国にいます。広東省深圳市の日本人補習校で先生と呼ばれています。ここは私が深圳大学に留学していた二〇〇一年に開校、児童生徒四名からのスタートでした。今では二四名、オフィスビルの二室を使用して学校らしくなりました。

海外だからこそ、この補習校に求められることも様々。いわゆる教科教育に留まらない課題を、週一回日曜日だけでフォローするには色々な努力も必要ですが、授業の組み立てから行事まで臨機応変、楽しくやっています。教員免許はない。でも人間やればできます。試行錯誤しっぱなしだけれど、生徒、保護者、同僚と協力してみんなで作り上げた学校です。子供たちと一緒にやりたいことを形にできる環境に恵まれました。

レポーターになりたいという大学時代からの夢は、今ももちろんあきらめていませんが、いま私にできること、いましかできないことがここにあります。私が必要とされる今、もう少し、与えられたこのチャンスと経験を活かしたい。そして、いま私はここにいます。

All-Rits 立命館校友大会2004のご案内

今年度の校友大会を下記の通り開催いたします。

キーワードはAll Rits。

現役学生・生徒を含めたオール立命館結集のエネルギーを
これまで以上に実感していただける大会を目指します。

当日は京都駅ビル一帯がキャンパスに。

詳細は決定次第、順次校友会ホームページにてお知らせし、校友会報次号（10月号）誌上でも詳しいご案内をいたします。
みなさま奮ってご参加ください。

日時

2004年10月30日（土）午後5時開場

会場

ホテルグランヴィア京都
京都駅ビル一帯（大会関連イベント）



第1回校友大会実行委員会を開催しました

5月12日（水）午後7時から、衣笠キャンパス中川会館4階校友会館401会議室において、今年度第1回めの校友大会実行委員会を開催しました。

校友会本部総務委員および、学部同窓会・附属校・スポーツフェロー・父母教育後援会の関係者、学園祭事務局の現役学生など約40名が参加し、昨年・一昨年の校友大会の様子を映像で振り返りながら、今年の大会をどのように創りあげていくかについての意見交換を行いました。

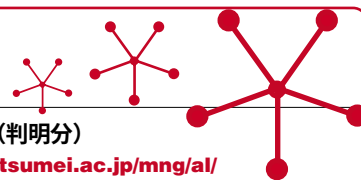
「『なつかしさ』だけでなく、『今の立命館』を打ち出そう」、「附属校等も含めた『オール立命館』が持つ力を結集して、より力強さを感じさせる校友大会にしよう」。出席の各委員からは活

発な意見が出されました。また、総務委員会での議論をふまえ、今回の大会名称を『All-Rits立命館校友大会2004』とすることが承認されました。

今後、企画の具体化に向けて回を重ねます。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



校友会ネットワーク



本年3月～6月中旬に行われた各団体の行事です（判明分）

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください <http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/>

都道府県校友会ほか

- 各地花見会
(3/26千葉青年部、28埼玉、4/3神奈川 他)
- 4/10 東京校友会トレッキングさーくる (12名・熱海、伊豆山)
- 4/15 宮崎県校友会交流懇親会 (13名・ホテルメリージュ)
- 4/25 静岡県校友会交流懇親会 (60名・ホテルサンルート清水)
- 4/29 千葉県校友会歴史地理探訪 (42名・南房総)
- 5/15 山梨県校友会総会
(32名・ロイヤルガーデンホテル)
- 5/29 関東新人歓迎会
(210名・有明パナソニックセンター)
- 6/5 高知県校友会総会 (41名・城西館)
- 6/6 滋賀県校友会総会 (60名・びわこ・くさつキャンパス)



山梨県校友会総会

地域校友会

- 3/12 ニューヨーク校友会現役学生との交流および会旗御披露目会
(16名・ニューヨーク宗際センター)
- 3/14 富嶽会総会 (26名・ホテルグランド富士)
- 3/27 上中町校友会総会 (20名・庄司旅館)
- 3/28 奈良若草会設立総会 (53名・三井ガーデンホテル奈良)
- 5/9 天理わだつみ会総会 (31名・ウェルカムハウスコトブキ)

職域校友会

- 3/7 北朋会総会 (27名・ライフオート札幌)
- 3/30 ダイワハウス大阪立命会発足式
(50名・ガーデンシティクラブ大阪)
- 4/5 東芝立命新人歓迎会 (50名・東芝鶴見クラブ)
- 4/7 Adecco Rits・APU Club (10名・東京神奈川地区)
- 5/9 滋賀銀行比叡会総会 (110名・琵琶湖ホテル)
- 5/25 大阪役所立命館大学校友会総会 (45名・ヴィアーレ大阪)
- 5/28 八尾市役所OB会「立八会」(40名・天繁)
- 6/2 高槻市役所槻立会総会 (43名・たかつき京都ホテル)
- 6/3 姫路市役所衣笠会総会 (45名・北京閣本館)
- 6/8 京都観光の会総会 (40名・京都ブライトンホテル)
- 6/12 大阪青年教員激励交流会 (20名・大阪オフィス)

学部・学科校友会

- 4/24 立命館大学情報会総会 (150名・大津プリンスホテル)
- 5/8 政策科学部創立10周年記念式典
(300名・京都ホテルオークラ)
- 5/8 機友会四国支部総会 (20名・大塚国際美術館)
- 5/22 機友会九州支部総会 (15名・アークホテル博多ロイヤル)
- 5/28 建設会広島県支部総会 (65名・広島全日空ホテル)
- 6/5 立命電友会総会 (150名・大津プリンスホテル)
- 6/6 経済学部同窓会総会 (50名・びわこ・くさつキャンパス)
- 6/6 経営学部校友会総会 (50名・びわこ・くさつキャンパス)
- 6/12 法学部同窓会総会 (180名・存心館702号)
- 6/14 関東建設会総会 (40名・ルビーホール)

サークルOB・OG会

- 3/28 バドミントン部創部55周年記念式典
(180名・京都全日空ホテル)
- 4/29 立命館大学新聞OB会総会 (聖護院御殿荘)
- 5/22 剣道部若竹会総会 (40名・末川会館)
- 5/23 写真研究会OB会カメラハイク (21名・中山寺周辺)
- 6/5 洛翠会(応援団OB・OG会)総会 (50名・からすま京都ホテル)

その他OB・OG会

- 3/18 本部新卒幹事歓迎会 & 校友会奨学金受給者祝賀会
(60名・衣笠キャンパス中川会館)



本部新卒幹事歓迎会 & 校友会奨学金受給者祝賀会

- 4/19 ロータリー立命会 (45名・木乃婦)
- 4/23 Rits Greater Society (39名・東京ドームホテル)
- 5/16 濱崎先生を囲む集い (110名・花園会館)
- 6/5 住ノ江ゼミS37卒同窓会
(11名・鳥羽安楽島温泉「海女の島」)
- 6/12 ウリ同窓会総会 (40名・桃園亭)

南の島からの便り

インドネシア校友会



Indonesia

南

緯六度の常夏の地に当会が誕生して六年になります。一九九八年六月にAPU設置準備インドネシア事務所がジャカルタに開設された折、当時所長であられた木村一信教授と校友諸氏の交流が進み、同年一〇月に校友会インドネシア支部が結成されたのが始まりです。現在当地の校友数は一六名で、年次総会、懇親会、ゴルフ、歓送迎会等年数回の活動を行っています。今までに長田総長はじめ多くの立命館関係者のご訪問を戴きました。

今年三月、藤原則夫初代会長（69経営）が本帰国されることになり、ジャカルタの和風イタリア料理店「Zzaat」にて送別会兼懇親会を開催致しました。郊外のスルボン、遠くはバリ島からも飛行機で校友が駆けつけました。

藤原さんは、七年間のジャカルタ生活を振り返りつつ、「人生とは出会の積み重ねが織り成すドラマ。積極的に織り成して欲しい」と希望を託されました。新会長になられた山下久男さん（68理工）は、世界各国をビジネスで飛び回られた方で、「何処でも人間を好きになることが一番であり、それが人生成功の秘訣ではないか」と語られました。APU第一期卒業生を「自分の経営する現地法人で採用される等、進んで校友支援をされている山下さんと、我々も志を同じくし、当会を益々発展させたいと考えております。当地へご赴任等の校友の皆様、一同大歓迎します。ぜひご連絡下さい。

澤井成年（84経済）・記



藤原初代会長送別会にて

西園寺公「坐漁荘」再建を祝って

静岡県校友会

Shizuoka

こ

の春、立命館学祖西園寺公望公が晩年を過ごした別邸「坐漁荘」が、静岡市によって清水興津の地に復元再建されました。地元静岡県校友会は、四月二五日に開催された開館記念祝賀行事に協賛し、当日は立命館学園の高杉巴彦常務理事や、記念講演をなさった岩井忠熊名誉教授らとともに、母校学祖ゆかりの施設

の誕生を大いに祝いました。静岡県内のみならず、東京・神奈川・埼玉などからも校友が参加されました。会場では、当会役員が校友会受付案内インフォメーションセンターを設けて奮闘。参加者は坐漁荘の瀟洒なたたずまいを堪能しつつ、立命館大学学宝数点を含む西園寺公愛用の品々を鑑賞し、ありし日の公の姿に思いを巡らせていました。

静岡市の行事の終了後は、ホテルサンルート清水に会場を移して、引き続き静岡県校友会主催の「坐漁荘開館記念祝賀パーティー」立命館大学校友交流のついでに、盛大に行いました。「この機に校友会活動のさらなる前進を目指しましょう」と、野末威八会長（55法）はじめ、一同意気揚揚でした。

一連の記念行事の締めくくりは、五月二九日の、駿府会（県中部会、富嶽会（県東部会、合同のファミリーハイキング。由比から坐漁荘を目指すコースで爽やかな汗を流しました。

折に触れて楽しい集まりを持ち、後輩への心配りも厚い、静岡県校友会です。

佐藤友清（67経済）・記



ファミリーハイキング坐漁荘前にて

立命館アジア太平洋大学(APU)は開学五年目に入り、着実に前進を続けています。開学前から多大なご支援を頂戴してまいりました立命館大学校友の皆様、APUの近況や新たな挑戦などについてご報告申し上げます。

顕著な就職実績

この春の就職実績は、四年間の成果を端的に表しています。全体で就職希望者の九五%が内定を得、その多くがいわゆる大企業へ入社したという事実には、APUで育った人材に対する社会的期待の大きさが表れていると考えます。特に国際学生の日本企業への就職については、希望者約一〇〇名全員が目標を達成し、顕著な実績をあげることができました。開学準備の段階からアドバイザリー・コミュニティとしてご協力いただいた各国・元首級の方々や企業トップの方々、また身近なところで親身にご支援下さった皆様にも、心から感謝を申し上げたいと思います。

本格的な多文化環境の実現

APUは、アジア太平洋地域を担う国際的人材の育成を目指し、日本で初めての本格的な国際大学として二〇〇〇年に開学しました。その後二〇〇三年四月には、同じく日本初の、英語で授業を行うビジネススクールなど、大学院も開設しました。今年四月現在で学生数約四〇〇〇人、そのうち約一七〇〇人が七二カ国・地域から集う国際学生であり、五〇カ国・地域から受け入れるという当初の

SPECIAL 3
特集 3

APU は新たな挑戦へ

立命館アジア太平洋大学学長

モンテ カセム
Monte Cassim



目標を大きく超えた、従来の日本にはなかった多文化・多言語環境を実現することができました。

APUの挑戦は開学以来、社会から大きな注目を集めてきました。例えば朝日新聞社が毎年発行している大学ランキングでは、高校の先生が注目する新設大学として、今年まで三年間連続して一位となっています。また学長アンケートにおいても、この二年間、居並ぶ伝統大学の中にあつて一〇位前後を保っています。

ユニークな教育システム

有為な学生を輩出する教育システムも評価が高まりつつあります。日英二言語教育システム(ほぼすべての科目を日英二言語で開講し、教育を行うシステム)は、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(GP=Good Practice、全国から六六〇件余りの申請がある中で八〇件が選ばれた)に選定されました。

他にも学生の勉学密度が自ずと濃くなるシステムが多くあります。成績評価

にあたっては期末試験の比重を五〇%以下にすると決められ、各教員は授業で日常的にテストやレポート等を課しています。また、学費が固定学費と登録単位数に応じた学費の二本立てになっているため、いわゆるカラ登録をせずに、最小限の受講登録で確実に単位を取ろうという意識が学生に強く働きます。さらに、国際学生は一般的に目的意識が明確でよく勉強するので、国内学生に良い影響を与えます。学生生活アンケートからは、国内学生は授業以外に平均して一日約二時間、国際学生は約三時間勉強しているという姿が浮かび上がってきました。

このような環境に惹かれてか、ほぼすべての都道府県から受験生が集まります。実際の在学をみても、九州以外の地域の出身者が国内学生の六割を占めています。

特色ある学生の活動

学生たちが展開する活動にも、他大学ではみられないユニークなものがあります。



たとえば、「世界歴史教科書博覧会」というサークルは、国際学生から集めた各国の高校の歴史教科書を、日本語と英語に翻訳して展示する取り組みを進めています。まさにAPUの持つ多文化環境の中で、互いの違いを認識しあいながら相互理解を深めようという取り組みです。また、キャンパスの周辺で風力発電を事業化しようとして、会社を作った学生もいます。海外に目を向け、タイの識字率向上に取り組むサークルや、異文化理解をテーマに、広く社会的活動を行うサークルも生まれました。

地域との交流も活発に行われています。大分県をはじめ各地の様々な催しに年間延べ一〇〇〇名を超えるAPU学生が参加をしています。中でも県内の五市町とは友好交流協定を結び、地域の発展に具体的に貢献しています。白杵市における学生による白杵研究プロジェクトの活動や、鶴見町での国際学生と小・中学生との交流による異文化理解教育などが例として挙げられます。また別府市内で国際学生がベトナム料理の店「ベトナムカフェ アン」を、温泉地鉄輪には日本人学生が中心になって雑貨屋「輪和(なわわ)」を開店するなど、実際の経営を学びながら地域活性化に寄与しようという動きも出てきました。他に「言語ウィーク」の取り組みなどを通じてキャンパスで日常的に異文化交流を進めたり、日本や各国の伝統芸能のサークルで、国際学生・国内学生が一緒になって取り組んでいる姿も見られます。

二〇〇二年秋には、世界二五カ国・地域の五八大学と、国内二三大学の学生三三九名が参加した世界学生サミットがA

PUで開催されました。三日間にわたる熱心な議論の中で、会場校の学生として、日頃蓄積したエネルギーと異文化交流のノウハウを存分に発揮したAPU学生の姿は、長く記憶に留められるものです。

これからのAPU

多くの成果を上げながらも、APUには一層の学生支援やアジア太平洋学の構造化などの課題が残されています。そこで、さらに新たな展開を図るべく、全学をあげてAPUニューチャレンジを検討しています。世界一〇〇カ国・地域から国際学生を迎え入れることや、グローバルスタンダードを創り出せる大学になること、多くの学生や研究者が集う知のプラットフォームを目指すことなどを目標に、具体化に向けた論議が進んでいます。立命館学園の国際化課題を率先して担うパートナーとして、立命館大学や各附属校との一層大胆な交流や協力のあり方も検討されています。

緒についた 校友会活動

さて、立命館大学校友会からは、社会に巣立つAPU学生への応援も頂戴しております。たとえば昨年一〇月には、関東地区の立命館校友の有志の方々のご訪問を受けて、進路支援のイベントを実施しました。続く一一月には、大分県校友会総会に学生が招かれ、交流を深めさせていただきました。この四月以降も、各地での新人歓迎会に多くのAPU校友が出席させていただいています。

まだ先輩を持たないAPUの校友にと

って、立命館大学校友の方々は非常に強い存在です。皆様の職場や地域でお世話になることもあろうかと存じますが、ぜひとも暖かく迎え下さい。

今後APU校友会は、オール立命館校友会連合の一翼を担う存在として、世界に広がるネットワークをいかに、校友会の国際化促進に貢献していきたいと考えています。同時に、立命館学園の理念を世界に広めるメッセンジャー役を果たしたく思います。

この四年間の取り組みの中で私たちは、APU建学の理念と、その方向性の正しさに確信を深めつつあります。皆様のご支援あつてこそと重ねて御礼申し上げますとともに、日本における本格的な国際大学のさがけとして自覚を新たに、いっそう努力する所存を申し述べましてこの稿を終えます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



主な就職内定企業(50音順、2004年3月末現在)

あおぞら銀行、アクセンチュア、アサヒビール、アデコ、アメリカンファミリー生命保険、伊藤忠商事、イーヨーカ堂、INAX、大分銀行、オリックス、鐘淵化学工業、川島織物、キッコーマン、九州電力、きんでん、熊谷組、公文教育研究会、グラクソ・スミスクライン、クラリオン、クレディセゾン、サンスター、三洋電機、滋賀銀行、シャープ、住友ゴム工業、住友電装、ソニー、西日本銀行、ニチコン、日産自動車、日本写真印刷、日本生命、日本通運、日本貿易振興機構(JETRO)、NHK、日本旅行、野村證券、東レ、日立製作所、福岡シティ銀行、福岡ドーム、富士ゼロックス、富士通、船井総合研究所、堀場製作所、松下電器産業、三井住友海上火災保険、三井住友銀行、三菱商事、明治安田生命、山下設計、ユニ・チャーム、リンナイ、ローム、YKK

BKC10周年を迎えて —記念行事から

BKC開学10周年・ 情報理工学部開設記念 式典を開催

(4月24日)



BKCは、1994年、滋賀県草津市との公私協力のキャンパスに理工学部が拡充移転して開学、1998年には経済学部と経営学部もBKCに移転して新展開、今年で開学10周年を迎えました。今年度は情報理工学部が開設され計4学部になり、開学時4,600名であった学生数は16,000名になっています。

式典では、長田豊臣総長が滋賀県や草津市の方々の支援と理解にお礼を述べ、今後の新しい時代の教育に向けた決意を示す挨拶を行いました。続いて、國松善次滋賀県知事からは、BKCが滋賀県の発展に貢献してほしいと今後の期待が述べられ、伊庭嘉兵衛草津市長からは産官学連携で世界をリードする立命館大学の活力を地元の発展に活かしたい、と祝辞をいただきました。

式典後、情報理工学部の基本施設「クリエーションコア」で研究室公開が行われ、多くの来場者が最先端IT機器・設備を体験しました。

「くさつフェスティバル in BKC」開催

(6月6日)

この企画は、BKC開学10周年記念と草津市制50周年記念をジョイントさせたもので、2003年に本学と草津市とで締結した包括協定にもとづく共同企画でした。

「見る」「学ぶ」「体験」「交流」をコンセプトに、地域・市民・学生が一体となってつくりあげる祭典として、朝10時からの川村貞夫副総長、伊庭嘉兵衛草津市長、村田進市議会議長によるオープニングセレモニーで開会しました。その後、キャンパス一帯でさまざまな企画が催され、来場者は2万人に達しました。

当日は、草津市教育委員会からの後援



伊庭草津市長を囲んでのパンサーズ、シーガルス

をいただき多数の親子連れの参加があるなど、草津の市民に大きくBKCをアピールすることができました。市民との交流企画としては、アメフト体験アトラクション「NFLエクスペリエンス」、京都パープルサンガ・子どもサッカー教室、学生のパフォーマンスなどが行われました。

校友も結集し、滋賀県校友会（高橋宗治郎会長）、BKC各学部同窓会・連絡協議会、校友会本部等の共催、後援による堺屋太一氏特別後援会は、1,300名の参加を得て盛況でした。上記各校友団体は引き続き合同懇親会を開催、50名のAPU学生も加わって250名で交流を深めました。



堺屋太一氏特別講演会

政策科学部も創立10周年

シンポジウムと記念式典開催（5月8日）

立命館大学政策科学部の創立10周年記念式典が、山田啓二京都府知事、高木壽一京都市副市長ら多数の来賓を招いて、京都市内のホテルで挙行されました。

長田豊臣総長は式辞で、ソ連邦の崩壊など世界が大きく動いていた政策科学部誕生当時の時代背景にふれ、今後の日本の高等教育が世界と競争し、問題解決の新しい道を切り開いていくためには、政策科学領域の学部や大学院が果たすべき役割が大きいことを強調しました。

式典に先立って開催されたシンポジウム「京都

と政策研究」では、山田知事が「役人が東京でつくる政策は既に限界がきている一方、地方では行政のニーズと大学のシーズとのコラボレーションが進んでいない」と問題指摘。これに対して川口清史政策科学部長が「行政は研究者とともに本気になって取り組んでほしい。今後はコーディネーターがニーズとシーズをマッチングさせコントロールしていくことが大事」と返すなど、熱のこもった議論が展開され、約200名の聴衆は熱



心に聞き入っていました。

産業社会学部は創立40周年

今年40周年を迎えた産業社会学部では、記念企画として、7月31日から11月まで「21世紀の世界と日本を読み解く—新たな社会的構想力を求めて—」をテーマに連続学術企画を開催し、12月4日には40周年記念式典と記念講演会を予定しています。

記念企画の詳細は、4月に開設した立命館大学産業社会学部ユニオンのホームページで紹介しています。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ss/reunion/>

立命館大学は、本年4月、市民的感觉と地球規模の視野をもつ「21世紀地球市民法曹」の養成をめざす法科大学院を開設した。

グローバル化が進展する昨今、鋭い人権感覚に基づいて市民の立場に立ち、かつ地球的視点をもって活動できる法曹こそ最も必要とされているのである。

この春、法科大学院に入学された小浮さんにお話をうかがった。

新聞記者からの転身、人権擁護の立場から社会に貢献したい

小浮さんはテレビ局入社後、ニュースセンターという社会情勢や社会問題そのものに密接に触れる機会の多い部署に配属され、小児癌で苦しむ子供や阪神淡路大震災の被災者など、数々の取材活動を経験してきた。そんな中、特に人権問題についての関心を高め、報道記者として、社会的に弱い立場にある人々に関する問題点を記事にまとめ、社会への情報発信に努めてきた。「記者という仕事を通じて、他人への思いやりを大切にしたい、心豊かな理想の社会実現をめざしたいと思うようになりました。単に記者としての情報発信だけに満足感を得ることはできなくなったんです」と、法科大学院へ進学した理由について語る。

直接的に人々と関わって社会的な矛盾を解決していくためには高度な専門性を持つ必要を感じ、社会の仕組みそのものを決める法曹への関心を高めた。「法律の知識はゼロ」という小浮さんだが、理想社会の実現へ向けての意欲と行動力は人並み以上だ。現に、これまでにアメリカの大学院で国際公共政策も学んでいる。目標達成のために必要な知識を得たいと思ったら、迷わ

Rits ^{時の学生} One



小浮正典さん

立命館大学法科大学院（法務研究科法曹養成専攻）1回生

M a s a f u m i K o u k i

心豊かな社会の実現をめざして 高度な専門性を身につけたい

ずに行動してきた。

多様な学生の集まるキャンパスで
刺激を受ける毎日

「自分がやりたいことを見つけるためには多くの選択肢が必要」と語る小浮さん。「入学にあたって、他大学のロースクールについてもいろいろと調べましたが、立命館では、広い分野のことを題材にバランスよく学ぶことができる」と入学を決意。実際のキャンパスには、30代半ばの自分よりも年上の学生が多いことに驚いた。元医者、元教師、元自衛隊員など、さまざまな分野

で活躍してきた多くの有志に囲まれた学生生活。

また、「教員と学生の距離が近く、対等な関係を築いている大学だなという印象をもちました。授業の後で先生が何か要望はないかと直接学生に聞いてくれるのには驚きましたね」と立命館に対する印象を語る。「みんな熱意を持って勉強をしているので、非常に刺激を受けます」と、朝は6時30分から夕方まで、1日最低10時間は大学にこもって勉強している。心豊かな理想の社会実現という自身の意欲を、実現に向けての行動力に繋げる絶好の学習環境を得た。

記者としての経験を活かし、
市民に身近な法曹の実現をめざす

「一般に『法律』というと、わかりにくいものという印象があります。将来は記者経験のある弁護士として、市民にとって身近なものにしていける手助けをしたい。わかりやすい情報伝達ができる法曹を目指したいで

すね」と語る小浮さん。

記者時代、少年事件と労働問題について強い関心を持った。法律の知識を深めることで、社会のゆがみを是正する立場で活躍することを夢みている。それは、報道記者として社会を眺めてきた小浮さんならではの地球市民像ともいえよう。そんな自身の経験を十分に活かしながら、今日も朝6時30分から机に向かい、ただひたすら、夢へ向かって邁進している。

取材：和田直也（法学研究科博士課程前期課程1回生）

こうき まさふみ

1992年京都大学経済学部卒業後、朝日放送入社、ニュースセンター一部記者。1998年米国ピッツバーグ大留学。大学院で国際公共政策を2年間学ぶ。帰国後、朝日新聞社神戸支局、東京メトロポリタンテレビジョンへの転職を経て、本法科大学院へ。



衣笠



オランダ国立社会科学大学院大学との 共同学位制度に大学院生を相互派遣

国際関係研究科では、オランダ・ハーグにある国立社会科学大学院大学（ISS）と協力協定を結び、最短二年間で両大学院の修士号を取得できるプログラムに、この夏、第一期生二名を派遣することになりました。

た。ISSは、開発援助研究の専門大学院で授業は英語。同様のプログラムは、一九九二年に米国・アメリカン大学大学院とも結んでいて今回が二例目です。

立命館大学「校友会奨学金」「課外・自主活動個人奨励金」「課外・自主活動団体助成金」授与式を開催

三月一八日、課外・自主活動における優れた実績をおさめた個人を奨励する「立命館大学校友会奨学金」「立命館大学 課外・自主活動個人奨励金」、優れた実績をおさめた団体を奨励する「立命館大学 課外・自主活動団体助成金」の授与式が行われました。

「立命館大学校友会奨学金」は、校友会長賞が一三名に、校友会副会長賞が一八名に贈られました。蟹江嘉信副会長からの祝福の挨拶に対し、将棋部の加藤幸男さん（理工4）が、



学生将棋界で三大タイトルを獲得した経験を重ね、お礼の言葉を述べました。また今回は、日本一の成果を収めた、アメリカンフットボール部、女子陸上競技部、将棋研究会の三団体に「校友会長特別賞」を贈ることとし、岡泰造副会長が目録を贈呈しました。

立命館大学法科大学院 開設記念式典を挙げる



三月一四日、法科大学院の開設記念式典が、以学館一号ホールで開かれました。式典に続いて行われたシンポジウムでは、米国・アメリカン大学ロースクールのエリオット・ミルシュタイン教授

と本学法学研究科園部逸夫客員教授が法科大学院の課題と可能性について基調講演を行いました。続いて、「新しい法律家とこれからの大学院」と題したパネルディスカッションが行われ、土井香苗弁護士、日本経済新聞社社会部横山晋一郎編集委員、日本弁護士連合会前事務総長の大川真郎本学法学研究科教授によりさまざまな意見が交換されました。

国際平和ミュージアム特別展 「銀のしずく降る降る」 知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界 オープニングセレモニー開催

五月一日、国際平和ミュージアムにおいて特別展「銀のしずく降る降る」知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界のオープニングセレモニーがミュージアム内の中野記念ホールで行われました。展示会では、アイヌの口伝を記録し日本語に訳した知里幸恵の生涯とその周辺の人々を通して、アイヌの文化・歴史・人間を知

ることができ、セレモニーでは、知里幸恵の血縁者である知里むつみ知恵森舎代表や中本ムツ子・玲菜両氏などアイヌ人の方も参加し、午後からは記念行事として中本氏による「カムイユカ」や「ウボボ」といったアイヌ吟唱・座り歌も実演されました。

各オフィスほか



立命館大学・大学院の入学式を挙げる

四月一日、大阪ドームにおいて二〇〇四年度立命館大学・大学院入学式が開催され、新たに開設した情報理工学部、法務研究科（法科大学院）など、学部と大学院をあわせて、約九〇〇〇名の新入生を迎えました。入学式典では、長田豊臣総長が「大学の門をくぐった皆さんは、これから知の創造に加わることにあります。伝承されてきた知恵をあらためて引き受け、その知識を人間と人間の共生、また人間と自然の共生のために伝承していくことが皆さんに求められています」と式辞を述べました。入場者数は新入生、父母、来賓、



B
K
C

五月二日、BKC学生交流施設（仮称）の起工式が執り行われました。この交流施設は、文化系サークルや正課・課外・境界領域の活動の活性化、BKC文化の創造と立命館アイデンティティ形成を目的とした施設。地上四階建てで、学生の幅広い使用目的に応じられるよう、グループ学習スペースや喫茶コーナー、イベントが開催でき

BKC学生交流施設（仮称） 建築工事起工式挙行

るステージの設置など、さまざまな設備が予定されています。二〇〇五年三月の完成予定。



三月三〇日、びわこ・くさつキャンパス「メディアセンター」で自動書庫説明会が開催されました。自動書庫は、図書館システムと連動した書庫で、利用者がメディアセンター内の端末から図書を請求すると地階から一階のサービスカウンターへ図書が自動搬送されるシステムです。

三月二日稼働のメディアセンター （BKC図書館 自動書庫説明会開催）

搬送時間は約二分のため、あらかじめ端末に請求入力しておく、本を受け取るまでの待ち時間を短くすることが可能になります。現在の収容能力は約三万冊で、今後増加する図書にも十分対応できる能力を有しています。

三月一六日、中国・上海交通大学において、立命館大学は、上海交通大学および大日本スクリーン製造株式会社と包括協定を締結しました。この協定の締結により、立命館大学は、中国で理工系のトップクラスにある上海交通大学、ならびに京都を拠点に最先端の技術力を活かして世界で事業展開をすすめている大日本スクリーン製造株式会社との共同研究・人的交流をはかり、研究の活性化や国際化の進展につなげていくこ

上海交通大学・大日本スクリーン製造株式会社・ 立命館大学が三者間包括協定を締結

とになりました。すでにこの協定にもとづいて、「液晶関連装置に関するコンピュータ解析」をテーマとした共同研究が進んでいます。

附
属
校

五月二八日、学校法人立命館は、理事会および評議員会において小学校の開設を決定し、同日記者発表を行いました。発表の席上で長田豊臣総長は、大学として一〇〇年以上歴史をもつ京都の地において、立命館アジア太平洋大学の開学や国際化の進展、理工教育の充実などこれまでの学園全体の経験を活かした小学校

立命館小学校の開設を決定

を開設し、京都の伝統と文化を大事にしていく教育を行いたいと考えている、と述べました。小学校は、二〇〇六年四月に北大路校地（京都市北区小山西上総町）に開設の予定。お問い合わせは、中等教育部（電話・075・465・1111内線2801）まで。

東京オフィスの来室者数 二万人を突破

一九九九年二月の開設以来五年が経過した東京オフィスの来室者数が、四月一日で二万人に達しました。二万人目となった来室者は、都内での就職活動を終えて東京オフィスに立ち寄った南総司君（立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋マネジ

メント学部四回生。東京オフィスは連日盛況で、一日あたり四〇人前後の学生が利用しています。



立命館大学大学院法学研究科 「金融と法 東京講座 開講式」



四月一日、東京・昭和女子大学オープンカレッジ棟で、大学院法学研究科「金融と

法」東京講座の開講式を開催しました。この講座は、「金融技術とリーガルエンジニアリング」をテーマに、最先端の金融取引の手法に関わる様々な専門知識を法学的見地から実践的に講義するもので、証券化・仕組金融を専門とする日本住宅ローン株式会社大垣尚司代表執行役を主任教授として開講しています。



S P O R T S &

SPORTS

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863



柔道部女子 初の関西学生優勝

第12回関西学生女子柔道優勝大会

優勝

(5/23、尼崎市記念公園総合体育館)

ノーシードの立命館大学は、初戦から接戦の連続でしたが、主将の尾野忍さん（産社4）を中心とした持ち前のチームワークで勝ち上がりました。強豪の近畿大学との決勝戦も大接戦となりましたが、2-2でむかえた大将戦で白井愛さん（産社3）が上四方固めで一本勝ちし、初優勝を決めました。

これまで準優勝3回、3位3回とあと一歩及ばず優勝を逃してきましたが、この日は「今年こそ」という強い気持ちを部員全員が持って試合に臨んでいたことが優勝という結果に結びつきました。



剣道部女子部 初の西日本制覇

第19回西日本女子学生剣道大会

優勝

(5/29・30福岡市市民体育館)

97校が参加し、選手5名による団体戦で西日本の頂点を目指す大会。例年全日本を制する強豪大学が複数ある九州地域からの出場が多い同大会を関西勢が制したのは、15年ぶりです。

立命館大学は、初戦から波に乗り、準決勝で対戦した鹿屋体育大学（同大会3年連続12回優勝）とは、先鋒、次鋒、中堅と一歩も譲らず後半戦の勝負となりました。副将の曲野理恵さん（法3）が、面を先取されるも面2本を取り返し、大将の田端薫さん（法4）がそれを守りきりました。決勝では昨年度準決勝で破れた中京大学と対戦。先鋒の山田美紀さん（法1）、次鋒の昇葉子さん（国関3）が厳しい試合を制し2-0で後半につなぎ、中京大学の反撃をしのいで2-1で初優勝を決めました。



小手を決めた山田美紀さん



航空部 格納コンテナ置き場完成

(4/15、BKCアクトα横)

格納庫建設という航空部および体育会全体の長年の要求をうけて、航空部・航空部OB会・大学が協力し、コンテナ設置が実現しました。

航空部は、近年着々と力をつけ、2002年度・03年度と連続で東海関西学生グライダー競技選手権大会で団体・個人優勝し、03



年度の全日本選手権では関東の強豪チームと渡り合い個人3位、団体6位の好成績を収めています。航空部では今回の施設整備を機にいつその飛躍を誓い合いました。



アメリカンフットボール部

アメリカンフットボール部パンサーズは、ライスボウル3連覇に向けて戦っています。前年のレギュラーが多数卒業しましたが、岸野公彦君（経営4）が新キャプテンに就任し、“Over The Head”をスローガンにチーム一丸となって練習に取り組んでいます。社会人チームにも春の招待試合で連勝するなど好結果を残しています。

横浜ボウル

(5/30 横浜スタジアム)

○25-22 ● vs.アサヒビールシルバースター

BKC10周年記念試合

(6/6 BKCクインスタジアム)

○24-3 ● vs.オービックシーガルズ

また、校友の方々の応援をいただくにあたり、ホームページの整備やパンサーズの発展に寄与することを目的に結成された後援会も充実が進んでいて、会報やイヤブックスの頒布、交流会の実施、チケットの配布などを行っています。ライスボウル3連覇に向けて、多くの校友のみなさまからスタジアムでの応援を賜りたいと存じます。

ホームページアドレスは、
<http://w3.to/panthers>
後援会のお問い合わせは、
077-567-6296（担当：由川）



硬式野球部

関西学生野球春季リーグ戦 優勝

(6季ぶり28度目)



EVENTS



ゴルフ部

関西学生女子連盟杯

(4/13・14 奈良柳生カントリー倶楽部)

優勝：香山 麻央 (法3)

4位：杉原 良実 (経営4)

6位：藤井 一世 (経営1)



自転車競技部

全日本選手権大会

(6/13 秋田県大湯村・ソーラースポーツライン)

個人タイムトライアルロードレース (31km)

23歳以下の部 優勝 河原林淳 (経済1)



重量挙げ部

全日本女子学生選手権大会

(4/15～17 羽曳野コロセアム)

75kg級 優勝 加藤博子 (国関4)

全日本女子選手権大会

(5/7～9 石川県産業展示館)

69kg級 優勝 齋藤里香 (産社3)



齋藤里香さん



射撃部

春季全関西学生選手権大会

(5/13～15 能勢ライフル射撃場)

総合優勝 (26連覇)

西日本学生選手権大会

(6/1～5 能勢ライフル射撃場)

総合優勝 (7連覇)



準硬式野球部

関西トーナメント 優勝



男子ソフトボール部

関西学生春季リーグ戦 優勝



卓球部

関西学生春季リーグ戦

男子 優勝

女子 2位



軟式野球部

関西六大学学生春季リーグ戦 優勝



フェンシング部

全日本大学王座決定戦

(6/5～6 中京大学体育館)

男子 フルーレ 4位

女子 エペ 優勝 (4連覇)



レスリング部

全日本選抜選手権大会

(4/13 駒澤体育館)

フリースタイル66kg級 優勝

鈴木崇之 (経営3)

西日本学生選手権大会

(5/15～16 大阪府立体育館)

団体優勝



水泳部

江島大祐 (産社1)

附属校のスポーツ



立命館宇治高校硬式野球部

春の甲子園で健闘 (3/23)

●4-5〇 vs.愛知工業大学名電高校

第76回選抜高校野球大会の開幕試合で、愛知の強豪と対戦。1点差まで食い下がる粘りを見せました。



CULTURE ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生センター
075-465-8141



将棋研究会

第60回学生名人戦

(5/29・30 将棋会館・北とびあ)

優勝 稲葉 聡 (経営1)

3位 禰保拓也 (経済3)

4位 山中恵介 (理工2)

＊APU開学、学園創立百周年という大事業の中で、校友会も大先輩の河原四郎会長をはじめ三役の皆様の大変なご尽力・ご苦勞のおかげで大きく成長して参りました。このような中、河原会長はじめ三役の皆様が、これらの事業が無事終わったのを見届けられ、若返りをはかって今後の発展を期するという事で、ご勇退されました。私などは、大先輩の河原会長には氏が大阪支部長の時代から大変温かく接していただくとともにお励ましをいただいております、また、副会長の諸先輩からも大変親しくご指導いただくなどただけに、今回のご勇退にはとても淋しい思いをしております。後任の山中諄会長（南海電気鉄道社長、'65経済）をはじめ三役も決まり、新たに山中丸が出帆しました。広報委員会も新執行部の下で、少し変化しなければ…と思っております。どうかよろしくご支援をお願いします。（尾崎）

＊我が後輩八田君の海外での活躍を知り、少しの驚きと大きな喜びを感じている。フロリダでのゴルフ部海外合宿の出発に際し、当時監督だった私が、「自分の身は自分で守れ。危険は外にあるのではなく自分の中にあると思え」と言った事を、確実に自分のものにしてきていたことが、殊に嬉しい。帰国後の感想で、どこに行っても全てを受け入れ、楽しむ気持ちを持つことが一番大切だと結んでいた。後進恐るべし！焦らず怠らず目標を達成されんことを祈念するのみだ。他に、彼の先輩も今年中国人と結婚した。私にとって急に中国が近くなってきた。APU出身校友も誕生し、ますます、日本に根を張る私のような者にも、迎える国際化は大いに楽しめそうだ。（G）

立命館学園債を募集します！

立命館学園債を下記のとおり募集します。

- 募集総額：10億円
（募集総額に達し次第締め切らせていただきます。）
- 発行日：2004年10月1日
- 償還日：5年据置の2009年10月1日に全額を償還いたします。
- 1口：500万円（口数自由）
- 利率（予定）：利付国債（5年）に準じる予定
- 申込受付（予定）：
2004年8月1日～2004年9月30日
- ※ 詳細につきましては7月末に決定し、ホームページ等でお知らせいたします。
- ※ この学園債は本学園の施設設備充実資金として使用いたします。

「立命館学園債」についてのお問い合わせ先

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学財務部経理課（立命館学園債担当）
E-mail keirika@st.ritsume.ac.jp

りつめい No.217／年4回発行

発行所／立命館大学校友会

発行人／山中 諄

編集人／尾崎 敬則

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

Tel. 075(465)8120・8124

Fax. 075(465)8125

URL : <http://www.ritsume.ac.jp/mng/al/>

E-mail : alumni@st.ritsume.ac.jp

● 校友会・グループ インフォメーション

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
山形県校友会総会	7/ 3(土)17:00	湯野浜温泉瀧の湯	奥山正明 0237(86)5215
香川県校友会総会	7/ 3(土)16:00	ホテルニューフロンティア	酒井成徳 087(886)9527
広島県校友会北部地区設立総会	7/ 3(土)17:00	ひろしま国際ホテル	松島哲也 082(814)8839
山口周南地区校友会総会	7/ 3(土)18:00	ホテルサンルート徳山	小西ヨシ子 0833(41)0412
清和会総会	7/ 3(土)16:00	京都全日空ホテル	立命館中・高 075(645)1051
ESS-OB会総会	7/ 3(土)15:00	京都第2タワーホテル	太田猛 075(465)8187
八幡支部（京都府）設立総会	7/ 4(日)13:30	松花堂資料館	奥村公平 075(983)1361
群馬県校友会総会	7/ 4(日)14:00	ウェルシティ前橋	金子嘉男 0277(72)1626
神奈川県校友会総会	7/ 4(日)14:00	崎陽軒本店	長谷川貞栄 045(929)6440
大阪校友会年次大会	7/ 9(金)18:30	ホテル阪急インターナショナル	大阪オフィス 06(6201)3610
スポーツフェロー懇親会	7/10(土)18:00	京都パークホテル	川本末夫 075(381)5770
長野県校友会総会	7/11(日)16:00	ホテルモンターニュ松本	猿田誠 0263(36)3455
鳥取県西部校友会総会	7/17(土)17:30	米子全日空ホテル	大野木昭夫 0859(32)3308
愛媛県校友会総会	7/17(土)16:00	松山ワシントンホテルプラザ	岡本正志 089(956)6517
秋田県校友会総会	7/19(月)15:00	秋田ビューホテル	兜森勲夫 018(834)6871
Rits Greater Society	7/23(金)18:30	東京ドームホテル	東京オフィス 03(5204)8611
岐阜県校友会第50回総会	7/24(土)17:00	ホテルグランヴェール岐山	折戸優児 058(251)2240
広島県校友会西部地区総会	7/24(土)17:00	廿日市市役所7階会議室	平岡滋 0829(32)8383
出町北寮同窓会	8/28(土)18:30	石長松菊園	小野徳 072(661)4504
All Rits Party in Sapporo	8/28(土)12:00	立命館慶祥中学校・高等学校	立命館慶祥中・高 011(381)8888
岡山県校友会総会	8/29(日)16:00	岡山プラザホテル	守屋博司 086(232)0948
広島県校友会総会	9/18(土)17:00	リーガロイヤルホテル広島	松島哲也 082(814)8839
経営研究会同窓会	9/19(日)11:00	京都新阪急ホテル	黄瀬良平 0729(55)0836
徳島県校友会総会	9/23(木)16:00	阿波観光ホテル	板東 忍夫 088(652)8647
埼玉県校友会総会	9/26(日)13:00	ラフレさいたま	河本好令 048(752)1117
Rits ちば校友のつどい	10/ 2(土)15:00	船橋グランドホテル	島田元泰 047(395)7604
建設会総会	10/16(土)13:00	びわこ・くさつキャンパス	BKC環境都市系事務室 077(561)2666
全国校友大会	10/30(土)17:00	ホテルグランヴィア京都	校友課 075(465)8120

● 校友消息（判明分）

叙勲 2004年春分

旭日重光章

西村章三氏（'58法）

元衆議院議員

瑞宝重光章

赤井達郎氏（'58院文）

元奈良教育大学長

旭日中綬章

北村春江氏（'52法）

元芦屋市長

東田 保氏（'60文）

元大阪府議

瑞宝中綬章

長尾久衛氏（'57院法）

元名城大学法学部長

瑞宝小綬章

木下新一氏（'49専工）

元京都府宇治地方振興局長

東村靖也氏（'50専法経）

元滋賀県警交通部長

笠倉 博氏（'57法）

元京都府裁判所事務書記官

川端 弘氏（'60院文）

元公立高校長

旭日双光章

西村好男氏（'50専文）

元久御山町議

山中 務氏（'51専工）

滋賀ビルメンテナンス協会長

瑞宝双光章

衣川和宏氏（'50法）

西陣和楽園長

石田博文氏（'58経済）

元特定郵便局長

瑞宝単光章

岡本 薫氏（'51法）

元民生・児童委員

危険業務従事者叙勲

2004年春分

瑞宝双光章

柴田伸一氏（'47専工）

警察功労

佐藤一二三氏（'49法）

警察功労

橋場 清氏（'52法）

警察功労

瑞宝単光章

古田謙治氏（'53法）

警察功労

褒章 2004年春分

黄綬褒章

桒 昭二氏（'49専文）

三洋織物社長

藍綬褒章

山田信之氏（'48専法経）

保護司

就 任

野副明邑氏（'62理工）

三菱アルミニウム(株)社長

西村 隆氏（'63法）

びわ湖放送(株)社長

野島英夫氏（'64経済）

(株)ダイヤモンドシティ 会長

渡辺康夫氏（'65法）

日本管財(株)常務取締役

寺岡史法氏（'66理工）

(株)東海理化電機製作所 副社長

根来良成氏（'69経営）

(株)ジャパンメンテナンズ 社長

藤井 勉氏（'71理工）

(株)東京衡機製造所 社長

松浦 徹氏（'75経済）

(株)55ステーション 社長

訃 報

小林幸男氏

(本学名誉教授・元産業社会学

部長)

3月10日ご逝去。81歳。

岡田 操氏（'57法）

(元大分県校友会副会長)

3月16日ご逝去。69歳。

逸見英夫氏（'56法）

(宮城県校友会会長)

3月29日ご逝去。73歳。

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から紹介させていただきます。

◆木村碩志氏（'52理工）著

『こうすればゴキブリの

退治ができる』

新風舎 ＊1500円

◆柴辻政彦氏（'59法）他著

『ダブル・スタンダードの

芸術—未来を拓く

造形作家たち』

淡交社 ＊2400円

◆川村匡由氏（'69文）他編

『社会福祉基本用

語集【五訂版】』

ミネルヴァ書房 ＊1600円

◆『福祉学生のための就職

ハンドブック』

中央法規出版 ＊1600円

◆鈴木元氏（'69経済）編

『新編ベスト・ハイク

京 滋 の 山』

かもがわ出版 ＊1600円

◆寺西純二氏（'74文）著

『教頭先生！出番です

よー〈ナンバー2〉が

行う教育改革』

文芸社 ＊1400円

◆吉田俊弘氏（'78法）他著

『新しい国をつくるー

エリトリア、東ティモール、

アメリカ、そして日本』

旬報社 ＊1400円



価格は本体価格です。